2023

■　実務経験のある教員等による授業科目一覧

以下の授業科目は、実務経験のある教員等が担当しています。
詳細は各シラバスを参照してください。

【芸術学部】

no	名称	単位	分類	主担当	
1	表現技術論	2	全学共通	担当：中井川　正道	オムニバス
2	京都学	2	学部共通	担当：新谷　裕久	オムニバス
3	京都学演習Ⅰ（デザイン）	2	学部共通（芸術）	担当：中井川　正道	
4	京都学演習Ⅰ（建築）	2	学部共通（建築）	担当：生川　慶一郎	
5	英会話Ⅰ	1	学部共通	担当：ヒルド　麻美	
6	美術工芸英語Ⅰ	1	学部共通	担当：ヒルド　麻美	
7	英会話Ⅱ	1	学部共通	担当：ヒルド　麻美	
8	英語コミュニケーション	1	学部共通	担当：ヒルド　麻美	
9	しごと論Ⅰ	2	学部共通	担当：中井川　正道	オムニバス
10	しごと論Ⅱ	2	学部共通	担当：新谷　裕久	オムニバス
11	インターンシップ	2	学部共通	担当：山田　秀幸	
12	メディアリテラシー	2	学部共通	担当：山田　秀幸	
13	伝統工芸概論	2	専門	担当：玉村　嘉章	オムニバス
14	日本住居史	2	専門	担当：井上　年和	
15	日本建築史	2	専門	担当：砂川　晴彦	
16	建築計画Ⅰ	2	専門	担当：人見　将敏	
17	建築概論	2	専門	担当：髙田　光雄	
18	工芸概論	2	専門	担当：玉村　嘉章	オムニバス
19	構成基礎演習	1	専門（建築）	担当：江本　弘	
20	建築材料	2	専門	担当：根來　宏典	
21	近代建築史	2	専門	担当：江本　弘	
22	社寺建築論	2	専門（建築）	担当：大上　直樹	
23	IT活用応用演習	2	専門	担当：宮内　智久/井上　晋一	
24	コンピュータデザイン演習	2	専門（建築）	担当：新海　俊一	
25	伝統建築図（応用）	2	専門	担当：大上　直樹	
26	建築施工法	2	専門	担当：河村　大助	
27	公共デザイン論	2	専門	担当：宮内　智久	
28	建築計画Ⅱ	2	専門	担当：森重　幸子	
29	建築計画Ⅳ	2	専門（建築）	担当：杉本　直子	
30	伝統建築論Ⅰ	2	専門（建築）	担当：白鳥　洋子	
31	伝統建築論Ⅱ	2	専門（建築）	担当：生川　慶一郎	
32	卒業制作・論文（文化財）	6	専門（芸術）	担当：小林　康弘	
33	工芸実習基礎Ⅰ（建築デザイン）	4	専門（建築）	担当：人見　将敏	
34	工芸実習基礎Ⅱ（建築デザイン）	4	専門（建築）	担当：森重　幸子	
35	建築デザイン演習Ⅰ	4	専門（建築）	担当：安田　光男	
36	建築デザイン演習Ⅱ	6	専門（建築）	担当：小梶　吉隆	
37	建築デザイン演習Ⅲ	4	専門（建築）	担当：井上　晋一	
38	卒業制作	6	専門（建築）	担当：井上　晋一	

2023

■　実務経験のある教員等による授業科目一覧

以下の授業科目は、実務経験のある教員等が担当しています。
詳細は各シラバスを参照してください。

【建築学部】

no	名称	単位	分類	主担当	
1	表現技術論	2	全学共通	担当：中井川　正道	オムニバス
2	京都学	2	学部共通	担当：新谷　裕久	オムニバス
3	京都学演習Ⅰ	2	学部共通	担当：生川　慶一郎	
4	英会話Ⅰ	1	学部共通	担当：ヒルド　麻美	
5	美術工芸英語Ⅰ	1	学部共通	担当：ヒルド　麻美	
6	英会話Ⅱ	1	学部共通	担当：ヒルド　麻美	
7	しごと論Ⅰ	2	学部共通	担当：中井川　正道	オムニバス
8	メディアリテラシー	2	学部共通	担当：山田　秀幸	
9	伝統工芸概論	2	専門	担当：玉村　嘉章	オムニバス
10	日本住居史	2	専門	担当：井上　年和	
11	日本建築史	2	専門	担当：砂川　晴彦	
12	建築計画Ⅰ	2	専門	担当：人見　将敏	
13	建築概論	2	専門	担当：髙田　光雄	
14	構成基礎演習	1	専門	担当：江本　弘	
15	建築CAD演習Ⅰ	2	専門	担当：新海　俊一	
16	建築材料	2	専門	担当：根來　宏典	
17	近代建築史	2	専門	担当：江本　弘	
18	建築CAD演習Ⅱ	2	専門	担当：宮内　智久	
19	世界建築史	2	専門	担当：白鳥　洋子	
20	建築計画Ⅱ	2	専門	担当：森重　幸子	
21	都市計画	2	専門	担当：新海　俊一	
22	建築設計導入実習	3	専門	担当：新海　俊一	
23	建築設計基礎演習Ⅰ	4	専門	担当：人見　将敏	
24	建築設計基礎演習Ⅱ	4	専門	担当：森重　幸子	
25	建築設計演習Ⅰ	4	専門	担当：安田　光男	

KYOBI 京都美術工芸大学

講義名	表現技術論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	各表現の特長、コンセプト、テクニックなどを理解し、自身の表現力の向上を目指す。
授業概要	表現技術の多様性を講述する。 芸術学部ディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 オムニバス形式 第１回　中井川正道　　全体ガイダンス 第２回　岡　　達也　　ポスター表現　1 第３回　岡　　達也　　ポスター表現　2 第４回　渡邊　俊博　　立体の表現 第５回　中山　智博　　３Ｄの表現　1 第６回　中山　智博　　３Ｄの表現　2 第７回　松本　浩作　　照明の表現　1 第８回　松本　浩作　　照明の表現　2 第９回　松本　浩作　　照明の表現　3 第10回　安藤　眞吾　　オノマトペ　1 第11回　安藤　眞吾　　オノマトペ　2 第12回　中井川　正道　美の表現　1 第13回　中井川　正道　美の表現　2 第14回　東俊一郎　街の色彩の表現 第15回　中井川正道　　まとめとレポート ＊講師の都合により内容の変更および講師の入れ替えがあります
成績評価	履修態度70%、各小レポート30%
教科書	配布資料、映像など
参考書　参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	講師の都合により内容、講師の変更、順番などの変更がある。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 想定の範囲内において各講義の内容について調べる。 講義後はわからなかったとことを中心に調べ講義の内容を十分に理解する。
関連科目	科学と芸術　伝統と学び　工芸概論　デザイン概論　しごと論Ⅰ、Ⅱ　発想と表現
課題に対するフィードバックの方法	第１５回に総括する
教員の実務経験	有
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-GE221L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	京都学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷　裕久	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	「京都市行政」を通じて日本文化の中心である京都の伝統と文化を学ぶ。また、京都の大学の学生として地域発展に結びつく連携の重要性について学ぶ。
授業概要	京都は歴史に育まれた多彩な文化が生活の中に息づいている。国内外から年間５千万人を超える観光客が訪れる、京都の奥深い魅力に触れるための、具体的な体験メニューや情報収集法などについて学ぶ。本学は、京都市と「包括連携協定」を結んでおり、地域連携の意義について理解を深める。授業はオムニバス方式であり、京都市の多岐にわたる分野（行政の総合企画局、産業観光局、都市計画局、文化市民局、保健福祉局、消防局、東山区役所、美術館等）の職員がゲストスピーカーとして登壇し、京都について総合的な理解を深める。 本学ディプロマポリシー1、2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回(オムニバス方式) ※第1回～14回については、京都市の担当部門の職員がゲストスピーカーとして登壇 第1回　留学生施策の推進／総合企画局総合政策室大学政策担当 第2回　「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進／総合企画局総合政策室大学政策担当 第3回　時を超え光り輝く京都の景観づくり／都市計画局都市景観部景観政策課 第4回　これからの京都観光～住んでよし、訪れてよし、働いてよし　歴史や文化を希望にかえるまち　京都～／産業観光局観光MICE推進室 第5回　博物館で学んでみませんか？／教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進担当 第6回　都心再生のまちづくり／都市計画局まち再生・創造推進室 第7回　京都市の文化財保護について／文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 第8回　わたしたちの伝統産業／産業観光局クリエイティブ産業振興室 第9回　京都駅東部エリア活性化将来構想／総合企画局プロジェクト推進室プロジェクト推進第三担当 第10回　美術館とは何か／文化市民局文化芸術都市推進室美術館 第11回　みやこユニバーサルデザインをみんなで考え、進めよう！／保健福祉局障害保健福祉推進室 第12回　家族を守る、地域を守る消防団／消防局消防団・自主防災推進室 第13回　東山区のまちづくり 山紫水明の都　結び合う心 東山の未来／東山区役所地域力推進室 第14回　SDGs（持続可能な開発目標）とは？／総合企画局総合政策室ＳＤＧｓ・市民協働推進担当 第15回　まとめ「京都美術工芸大学は京都でなにをするのか？」／副学長　新谷裕久 ※テーマ、日程等は都合により変更となる場合があります。
成績評価	受講態度（10%）、毎回講義中に実施する小レポート（90%）をもって評価する。 受講態度は、遅刻、レポートの提出遅れなどが該当する（減点方式）。 原則、レポート提出のない場合は欠席とみなす。5回以上欠席の場合は不可とする。公欠による欠席の場合は、追レポートにより評価を行う。
教科書	講義ごとに事前に資料を配布する（クラスルームに添付）。
参考書　参考資料	京都市ホームページ（www.city.kyoto.lg.jp）
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話を聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努める。 クラスルームで資料の配布、出席管理、小レポートの提出等を行うので、パソコンを持参すること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 予習は、各テーマごとの「京都市ホームページ」等をチェックしておくこと。また、事前に講義資料を配布するので目を通し、質問等があれば整理しておくこと。 復習は、各テーマごとの講義ノートと配布された資料を整理し、理解しておくこと。
関連科目	京都学演習Ⅰ、社会活動Ⅰ、社会活動Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-TR102L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	京都学演習Ⅰ（デザイン）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
助教	加納　奈都	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
非常勤講師	久保田　康夫	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
非常勤講師	藤井　容子	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	「京都」を対象とし、各専攻の専門性における歴史的知識や見識を身につける。
授業概要	1200年の歴史をもつ京都の文化的価値や現代生活との関係を学ぶ。 デザイン・工芸学科のディプロマポリシー１、３に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 演習全般に関する説明（グループ編成の場合あり） 第2回 調査指導 文献調査、資料収集を行う。 途中回 演習プログラムの内容についての助言 プログラム1－調査内容の作成 途中回 演習プログラムの内容についての助言 プログラム2－調査および調査報告書の作成 第15回 演習プログラムの内容確認 調査報告書の提出　評価 *京都市内の調査対象に直接アプローチする。
成績評価	履修態度および調査内容（50%）調査報告書のレベル（50%）により評価する。
教科書	特になし
参考書　参考資料	京都府の歴史散歩上・下　京都府歴史遺産研究会編　山川出版 アジア古都物語　京都千年の水脈　NHK出版 景観を歩く京都ガイド　清水泰博　岩波アクティブ新書 京都まち遺産探偵　円満字洋介　淡交社 大人の京都探訪　松田彰　リーフ・パブリケーションズ　他
履修上の注意	特にフィールドワーク・校外活動の際は、規律のある行動を取るように気をつけてください。
予習・復習指導	準備学習を行う 自身の興味（視点）と京都における調査対象を定めるため、京都の案内書や歴史書、文化財資料などを学習する。 調査対象を選択し視点と関係する内容を詳細に抽出する。
関連科目	「日本美術史」「伝統住居概論」「文化財概論」「博物館概論」「日本工芸美術史」「社寺建築概論」「文化財修理論」「伝統絵画技法」「京都学」「伝統建築論Ⅰ」「文献-絵画資料概論」「博物館資料論」
課題に対するフィードバックの方法	調査報告書の評価について提出後web掲示板に公開する。
教員の実務経験有無	あり
科目ナンバリング	COM-TR208S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	京都学演習Ⅰ（建築）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生川　慶一郎	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	髙田　光雄	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	京都におけるまち・建築・空間を直接往訪し、現在に受け継がれてきた日本の伝統・文化、美しい町並み・その成り立ち、京都に育まれてきた豊かなコミュニティ等について自ら体験とすることで、「京都らしさ」とは何か、「京都において建築を学ぶ意義」を問う機会とする。また、グループフィールドワークやその結果の発表機会を設けることで、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養成する。
授業概要	京都に関連がある特色のある建造物やまちなみ、景観、庭園などを選定し、その歴史(由来、建設経緯や設計者など)や特性（意匠的・構造的特徴など）を調べる。その結果を、Google My Maps を活用して各自が選定したコンテンツに対応するアイコン、画像（スケッチあるいは写真）、文章やデザイン、レイアウトなどに工夫を凝らし、建築に関連するテーマを定めてストーリー性のあるパンフレットを作成する。本科目は建築学科のディプロマポリシー3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回　オリエンテーション、課題説明 第 2 回　フィールドワーク① 第 3 回　フィールドワーク② 第 4 回　フィールドワーク③ 第 5 回　フィールドワーク④ 第 6 回　フィールドワーク⑤ 第 7 回　フィールドワーク⑥ 第 8 回　エスキスチェック① 第 9 回　追加調査① 第10 回　追加調査② 第11 回　エスキスチェック② 第12 回　資料作成① 第13 回　資料作成② 第14 回　プレゼンテーション 第15 回　成果物の評価フィールドワーク ※学習への理解、到達状況に加えて、コロナ等の感染状況応じて、フィールドワークの実施可否など適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	提出シート、プレゼンテーション
教科書	なし（配布資料あり、パワーポイントなどを使用）
参考書　参考資料	モダン建築の京都100、建築MAP京都、京都の近代化遺産、京都近代の記録など
履修上の注意	本講義中に行うフィールドワークには必ず出席し、ワークショップに臨むこと。 フィールドワーク時には、大学生としての自覚を持ち、事故のないよう注意すること。 校外学習を行う際は、規律のある行動をとること。
予習・復習指導	フィールドワーク、シートの作成などに当たっては、グループの連携を計り、プレゼンテーションの完成度を高めること。
関連科目	京都学、伝統建築論Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	最終回に成果品、プレゼンテーションに対し講評を行う。
教員の実務経験	調査研究実務経験豊富
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-TR208S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	英会話Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	英語の基礎を知識としてではなく言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数（読んでわかり、聞いてわかり、自分で使える単語の数）と最低限の規則（文法）が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。 また、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICに挑戦できる実力がつくことをめざす。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　科目説明　授業計画紹介　Orientation, Self-Introduction in English 第2週　Unit 1: Listening & Reading Practice 1, 提出物 1 第3週　Unit 2: Listening & Reading Practice 2, 提出物 2 第4週　Unit 3: Listening & Reading Practice 3, 提出物 3 第5週　Unit 4 + Review (1) 範囲Unit 1-3 第6週　Unit 5: Listening & Reading Practice 5, 提出物 4 第7週　Unit 6: Listening & Reading Practice 6, 提出物 5 第8週　Unit 7: Listening & Reading Practice 7, 提出物 6 第9週　Unit 8 + Review (2) 範囲Unit 4-7 第10週 Unit 9: Listening & Reading Practice 9, 提出物 7 第11週 Unit 10: Listening & Reading Practice 10, 提出物 8 第12週 Unit 11: Listening & Reading Practice 11, 提出物 9 第13週 Unit 12: Listening & Reading Practice 12, 提出物 10 第14週 Review Test (3) 範囲Unit 8-12 + Review (1)(2)未受験者の追試 第15週 Speaking Test + Review (1)(2)(3)未受験者の追試 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	評価ポイント：　定期試験 30%, Review Test 3回 30%, Speaking Test 10%, 授業中の提出物・小テストと積極的な授業への参加 30%
教科書	Welcome to the TOEIC L&R Test（新訂版 TOEIC L&R テストへようこそ） 北原良夫編著（株）朝日出版社 ISBN 978-4-255-15649-1
参考書　参考資料	英和辞典、和英辞典
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、リスニングが苦手な人は何度も聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	美術工芸英語、英会話II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。小テストは間違った箇所を確認できるように、必ず返却する。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO102S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	美術工芸英語		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	前期の英語学習に基づき、語彙数（読んでわかり、聞いてわかり、自分で使える単語の数）をさらに増やし、最低限の規則（文法）をマスターすることを目標とする。 また、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICに挑戦できる実力がつくことをめざす。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　Unit 13 Listening and Reading, 提出物 1 第2週　Unit 14 Listening and Reading, 提出物 2 第3週　Unit 15 Listening and Reading, 提出物 3 第4週　Unit 16 Listening and Reading, Review (1)範囲Unit 13, 14, 15 第5週　Unit 17 Listening and Reading, 提出物 4 第6週　Unit 18 Listening and Reading, 提出物 5 第7週　Unit 19 Listening and Reading, Review (2)範囲Unit 16, 17, 18 第8週　Unit 20 Listening and Reading, 提出物 6 第9週　Unit 21 Listening and Reading, 提出物 7 第10週 Unit 22 Listening and Reading, Review (3)範囲Unit 19, 20, 21 第11週 Unit 23 Listening and Reading, 提出物 8 第12週 Unit 24 Listening and Reading, 提出物 9 第13週 Review (4) 範囲Unit 22, 23, 24 + Review Test (1)(2)(3)未受験者の追試 第14週 Speaking Test 第15週 実力確認 + Speaking Test未受験者, Review Test (1)(2)(3(4)未受験者の追試 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	評価ポイント：　実力確認 30%, 小テスト 40%, Speaking Test 10%, 授業中の提出物と積極的な授業への参加 20%
教科書	前期に使用した教科書を続けて使用する Forerunner to Power-Up English　総合英語パワーアップ ― リスニングからリーディング<入門編> （株）南雲堂　ISBN 978-4-523-17624-4
参考書　参考資料	英和辞典　和英辞典
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声をストリーミング配信するので、リスニングが苦手な人は何度も聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	英会話I　英会話II　英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。小テストは間違った箇所を確認できるように、必ず返却する。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO103S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	英会話Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	どの専門分野でも必要となるコミュニケーションのための語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。就職、進学に備え、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICで５００点以上を獲得できる実力を目指す。
授業概要	どの専門分野でも必要なコミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手を理解し、自分の意思を伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第１週 授業計画紹介 Listening, Reading, Speaking 1, 提出物 1 第２週 Listening, Reading, Speaking 2, 提出物 2 第３週 Listening, Reading, Speaking 3, 提出物 3 第４週 Listening, Reading, Speaking 4, 提出物 4 第５週 Listening, Reading, Speaking 5 + Review Test 1 (1-4) 第６週 Listening, Reading, Speaking 6, 提出物 5 第７週 Listening, Reading, Speaking 7, 提出物 6 第８週 Listening, Reading, Speaking 8, 提出物 7 第９週 Listening, Reading, Speaking 9 + Review Test 2 (5-8) 第10週 Listening, Reading, Speaking 10, 提出物 8 第11週 Listening, Reading, Speaking 11, 提出物 9 第12週 Listening, Reading, Speaking 12, 提出物 10 第13週 Review Test 3 (Unit 9-12) + Review Test (1)(2)未受験者追試 第14週 Speaking Test + Review Test (1) (2) (3) 未受験者追試 第15週 実力確認 + Speaking Test, Review Test (1) (2) (3) 未受験者追試 (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	評価ポイント：　定期試験(実力確認) 30%, Review Test 3回 30%, Speaking Test 10%, 授業中の提出物・小テストと積極的な授業への参加 30%
教科書	授業中にプリント資料を配布します。
参考書　参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	このクラスは中級ですが、難易度は初級と変わりません。 1年次後期「美術工芸英語」で「良」を取得した学生で、英語の基礎がためをしたい人を主に対象とします。 他クラスとの成績調整のため、このクラスの最終週テストに加えて定期試験を受けてもらいます。 中級は前期後期あわせて３クラス開講されますが、履修者数に大きな偏りが生じた場合、履修曜日変更をお願いすることがあります。
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声が配信されるので、長いリスニング問題は聞き取れるまで何度も繰り返し聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	英会話 I、美術工芸英語、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。毎回の提出物は間違った箇所を確認できるように、必ずfeedbackする。随時教室でまたはメールで質問を受けつける。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO204S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	どの専門分野でも必要となるコミュニケーションのための語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。就職、進学に備え、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICで５００点以上を獲得できる実力を目指す。
授業概要	TOEIC 500点以上をめざすテキストを使用し、どの専門分野でも必要なコミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手を理解し、自分の意思を伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第１週 授業計画紹介 Unit 1: Sightseeing 第２週 Unit 2: Restaurant, 提出物 1 第３週 Unit 3: Hotel / Service, 提出物 2 第４週 Unit 4: Employment, 提出物 3 第５週 Unit 5: Entertainment + Review Test (1) 範囲: Unit 1-4 + vocabulary 第６週 Unit 6: Shopping / Purchases, 提出物 4 第７週 Unit 7: Sports / Health, 提出物 5 第８週 Unit 8: Doctor's Office / Pharmacy, 提出物 6 第９週 Unit 9: Hobbies / Art + Review Test (2) 範囲: Unit 5-8 + vocabulary 第10週 Unit 10: Education, 提出物 9 第11週 Unit 11: Technology / Office Supplies, 提出物 10 第12週 Unit 12: Transportation, 提出物 11 第13週 Unit 13: Travel + Review Test (3) 範囲: Unit 9-12 + vocabulary 第14週 Unit 14: Housing / Construction, 提出物 13 第15週 Unit 15 Mini Testと解答提示 + Review Test (1)(2)(3)未受験者追試 (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	評価ポイント：　定期試験+実力確認Mini Test 30%, Review Test 3回 30%, Speaking Test 10%, 授業中の提出物と積極的な授業への参加 30%
教科書	PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC L&R TEST (600点を目指すTOEIC L&R TESTへのストラテジー) 松本恵美子他著 (株)成美堂 ISBN 978-4-7919-7233-3
参考書　参考資料	英和辞典　和英辞典
履修上の注意	この授業は、３年生以上を対象とするTOEIC対策に特化したクラスで、履修後に前期TOEIC学内団体受験を受験する学生を対象とします。 このクラスの履修には英会話I、美術工芸英語、英会話IIの単位をすでに取得していることが必要です。
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、長いリスニング問題は聞き取れるまで何度も繰り返し聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	英会話 I・美術工芸英語・英会話 II
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。毎回の提出物は間違った箇所を確認できるように、必ずfeedbackする。随時教室でまたはメールで質問を受けつける。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO305S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	しごと論Ⅰ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	・「しごと」の多様性とその意義を理解する。 ・自身の将来の「しごと」について思考する。
授業概要	様々な仕事での貴重な経験談を通して、人の心のありようを知ることや、知恵、努力の様を学ぶ。 本学のディプロマポリシー１、２に該当する。
授業計画 授業内容	オムニバス形式／全15回 第１回　新谷　裕久（教授/大学企画・広報） 第２回　高田　光雄（教授/建築家） 第３回　川尻　潤　（特任教授/陶芸家） 第４回　堀木　エリ子（客員教授/和紙デザイナー） 第５回　前田　尚武（京セラ美術館企画推進ディレクター） 第６回　塚本　カナエ（非常勤講師/プロダクトデザイナー） 第７回　宮本　貞治（特任教授/木工家） 第８回　簇　邦充　（数寄屋大工） 第９回　コシノ・ジュンコ（客員教授/デザイナー） 第10回　阿部　祐二（客員教授/俳優/リポーター） 第11回　国広　ジョージ（客員教授/建築家） 第12回　中井川　正道（教授/環境デザイン） 第13回　大西　英玄　（清水寺成就院住職） 第14回　久保田　康夫（フォトグラファー） 第15回　三木　表悦　（特任准教授/漆芸家） ※順番は前後する場合があります ※講師の都合により、他の講師と入れ替える場合があります（上記は昨年の講師）
成績評価	毎回の小レポート80%、受講態度20%によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書　参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話を聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 想定の範囲内において各講師の仕事内容について調べておく。 講義後は分からなかった内容や用語などを調べて講義の内容を把握する。
関連科目	3年次には引き続き「しごと論Ⅱ」を受講することが望ましい。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-CA101L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	しごと論Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷　裕久	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	将来の就職において、学科、コースの専門性をどのように活かしていくのか。就職への助言にとどまらず、改めて仕事に向かうべく姿勢を再認識させ、社会に対して新たな視点をもつ機会とする。
授業概要	1年次の「しごと論Ⅰ」では、新入生ということで具体的にイメージすることのできなかった社会人としての自覚の高揚を改めて3年次に実施する。美術工芸、建築の実務家教員によるオムニバス方式授業として、教員の専門的テーマから具体的なイメージを与えることにより、将来の就職への方向性を明確にする。 本学のディプロマポリシー１、２に該当する。
授業計画 授業内容	オムニバス方式 / 全 15 回 第 1 回（安藤　眞吾）ものづくりデザインについて 第 2 回（髙田　光雄）住宅リノベーションについて 第 3 回（遠藤　公誉）漆芸について 第 4 回（繁本　　護）国会議員のしごとについて 第 5 回（山内　貴博）建築とランドスケープについて 第 6 回（玉村　嘉章）木工について 第 7 回（安田　光男）ミラノでの「しごと」について 第 8 回（川尻　　潤）陶芸について 第 9 回（井上　年和）歴史的建造物の保存修理について 第 10 回（中井川正道）環境デザインについて 第 11 回（人見　将敏）建築設計と社会との関わりについて 第 12 回（岡　　達也）文化財情報デザインについて 第 13 回（津村　健一）美術と造形について 第 14 回（井上　晋一）集合住宅の調査と設計について 第 15 回（新谷　裕久）防災・安全衛生管理について　総括
成績評価	毎回の小レポート（80%）、期末試験（論述形式）（20%）によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書　参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話を聞きながら、要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 配布資料や講義内容から、専門用語（作品・作家・技法）について復習し、関連用語（作品・作家・技法）についても調べるなど理解を深めておくこと。
関連科目	1 年次開講科目である「しごと論Ⅰ」に引き続き履修することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-CA302L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 山田　幸秀	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	①仕事の現場を体験し大学で学ぶ意義を再確認する ②社会人として必要な知識やスキルを身につける ③卒業後の進路に対する明確な意識を醸成し、進路選択のミスマッチを防ぐ ④仕事の現場での能動性（課題の設定・解決策の実践等）を高める
授業概要	卒業後のキャリア人生を充実したものにするため、社会人としての仕事を実体験するカリキュラム。 3年次前期の事前学習を通じて就業体験を希望する企業、事業所等を見つけ、原則として夏季休暇中の5日間（各日8時間）を実習期間にあて、レポートやプレゼンテーションによって振り返りを行う。 特に仕事現場での問題解決や自己の成長を図るため、適切な課題設定を行って実習に臨むことを重視する。 本学のディプロマポリシー３に該当する。
授業計画 授業内容	■令和２年度の予定 ①事前学習（１） ガイダンス ②事前学習（２） 業界研究＜１＞ ③事前学習（３） 業界研究＜２＞ ④事前学習（４） インターンシップの心得など ⑤事前学習（５） 実習計画書作成 ⑥事前学習（６） メンタルケア ⑦実　　習 夏季休暇中、原則として５日間の実習スケジュールを実習先と相談のうえ各自が設定 ⑧事後学習（１） 報告書の書き方指導 ⑨事後学習（２） 感想発表 ⑩事後学習（３） プレゼン＜１＞ ⑪事後学習（４） プレゼン＜２＞ ＊予定は変更になることがあるので、掲示などで確認すること ■想定される実習先 各種工房、工芸・建築・デザイン関連企業、京都伝統工芸協議会会員企業、京都府物産協会会員企業、業界団体・組合、公的機関など ＊原則として学生が自ら実習先を開拓する。帰省先等での実習も可能。就職を希望する業界や企業での就業体験を特に推奨する
成績評価	事前・事後学習（30%）、実習先での学びと行動（＝実習報告書40%）、実習先の評価（30%）により総合的に評価する
履修上の注意	・履修したものの実習に行かなかった場合は成績が「不可」となるので注意すること。その場合、後期の履修取り消し期間内に取り消しの手続きができる。特に夏休みに建築士試験対策講座などを受講する者は注意を要する。 ・コロナ感染拡大防止のため、インターンシップをオンラインに切り替える企業や事業所が出てくることが考えられる。この場合は感染拡大防止を最優先とし、オンライン等も実習として認める。
予習・復習指導	インターンシップは心と技を磨く貴重な教育機会であるため、履修者には十分な準備と能動的な姿勢が要求される。1コマあたり1・5時間の予習・復習が必要。
関連科目	「キャリア支援講座Ⅰ・Ⅱ」の講義を兼ねる。
課題に対するフィードバックの方法	実習先の選定などの相談や質問を随時受け付ける。
教員の実務経験	塾・予備校講師／国会議員秘書（議員会館）／情報誌の編集、新聞の取材・インタビュー・連載企画／外国領事館での国際交流、査証発給業務など。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA305P

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	ﾒﾃﾞｨｱﾘﾃﾗｼｰ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 山田　幸秀	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	・大学の研究や日常生活において情報を適切に収集、活用する意識と能力を高める。 ・積極的にニュースメディアに接する習慣を身につけ、社会への適応能力を養う。 ・特に海外ニュースについては、英字メディアや英文サイトから一次情報にアクセスする技術を習得する。 ・新聞、テレビ、ラジオなどのメディア関係者から直接、話を聞くことで、ニュースや情報に対する関心を深めるとともに、発信する側の思いや取り組みを知る。
授業概要	テレビや新聞などの既存メディアに加え、わたしたちはインターネットを通じてさまざまな情報を得ている。ネット情報は真偽や質が問題視されることが多いが、一方で、長年に渡って情報を独占してきた既存メディアの誤報や偏向報道、「切り取り」による印象操作などの弊害を監視する機能を果たしているという側面も否定できない。大学の研究や日常生活にこれら新旧メディアをどう使い分ければいいかを考え、社会生活においてメディアを活用する技術を身につけるため、メディアの特性を知るとともに、一線で活躍するメディア関係者らの話を聞く。 また、“USA TODAY”“Washington Post”などの英字紙、“Rotten Tomatoes”“IMBd”などの英字映画情報サイトからタイムリーなトピックをピックアップし、日本では報道されない情報や、海外の視点に触れる。 さらに、日々のニュースの主役であり、普段はメディアの取材対象となる警察関係者、外交官、政治家、インテリジェンス関係者などからメディアのフィルターを通さずに直接話を聞く機会を設ける。 本科目は、本学のディプロマポリシー2、3に該当する
授業計画 授業内容	全15回 第１回　ガイダンス：メディアリテラシーとは ― メディア情報を大学生活にどう生かすか 第２回　メディアの種類と特性 ― 新聞、テレビ、ラジオ、通信社、雑誌、フリーペーパー、インターネット 第３回　メディアを巡る諸問題(1) ― 誤報、客観報道と情報操作 第４回　メディアを巡る諸問題(2) ― 実名報道 第５回　英字メディアのリテラシー(1) 第６回　英字メディアのリテラシー(2) 第７回　テレビ局の仕事 第８回　新聞社の仕事 第９回　FMラジオ局のさまざまな取り組み ― 音楽からアートまで 第10回　ソーシャルメディアの功罪 第11回　ニュースの主役(1) ― 警察 第12回　ニュースの主役(2) ― 外交官 第13回　ニュースの主役(3) ― 政治家 第14回　動画広告の世界（「カンヌライオンズ国際クリエイティビティフェスティバル」歴代入賞作品の紹介） 第15回　情報収集・分析のプロたち ― インテリジェンスとは ※予定は目安です。変更になる場合があります。
成績評価	・毎回の小レポートを点数化し、出席状況を加味した上で評価する。
教科書	授業開始に先立ち、オリジナルテキストを配付する。
参考書　参考資料	「実名と報道」（日本新聞協会 編集委員会）　※同協会のウェブサイトから無料でダウンロードできます。
履修上の注意	・受け身の姿勢ではなく、自分のアタマで考えながら受講すること。 ・ゲストには積極的に質問を。
教員の実務経験	産経新聞社で情報誌の編集、米全国紙"USA TODAY"のダイジェスト版の翻訳、新聞の取材、インタビュー、紙面連載などに携わる。その後、在大阪カンボジア王国名誉領事館館長としてビザの発給業務のほか、カンボジアー日本の二国間交流や米国、台湾など各国在外公館との国際交流に従事。 情報誌では特集、エッセー、旅行などの連載を担当したほか「湾岸戦争特集」を発行。クウェートを解放した多国籍軍に130億ドルもの資金を提供しながら、クウェート政府が米国の主要新聞に出した国際社会への感謝広告に日本の国名がなかった問題を取り上げた。また、新聞のインタビューでは政治家、外交官、大学教授ら数多くの人物を取材し、紙面で紹介した。 また、約20年にわたり関西のメディア、警察、外国公館、政治家、インテリジェンス関係者らが集まる私的な交流会を主宰。メンバーには本講座のゲスト講師として協力いただいている。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA106L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	伝統工芸概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	芸術学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村　嘉章	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	・工芸業界の裾野の広さを理解する。 ・各工芸について基本的な知識を身につける。
授業概要	京都の伝統工芸業界の実務者による講演形式の授業を実施することで、工芸業界の裾野の広さを学ぶ。 本学のディプロマポリシー１、２、３に該当する。
授業計画 授業内容	オムニバス／全１５回 第１回　玉村　嘉章　　概論 第２回　藤井　收　　漆芸 第３回　小田　珠生　　表具 第４回　小田　珠生　　表装 第５回　八田　誠治　　友禅・西陣 第６回　須藤　拓　　鍛金 第７回　須藤　拓　　鋳金・彫金 第８回　小島　登　　桐箱 第９回　井上　楊彩　　人形 第10回　福永　荘三　　念珠 第11回　龍村　周　　錦織作家 第12回　猪飼　祐一　　京焼 第13回　石田　正一　　竹工芸 第14回　渡邉　晶　　刃物 第15回　中村　佳之　　京こま ※上記リストは昨年度のものであり、今年度は講師の変更や順番が前後する場合があります。 　詳細については第1回目の概論において説明します。
成績評価	毎回実施する小レポートにより評価する。
教科書	各講義の担当教員が必要に応じて資料を配布する。
参考書　参考資料	『工芸の見かた・感じかた』(東京国立近代美術館工芸課：編)淡交社 『明日への伝統工芸』(浅見 薫著)㈶京都伝統工芸産業支援センター [その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]
予習・復習指導	(内容)各講義の担当教員の略歴や特徴、用語や作品など、重要と感じることについて調べること。 (時間)講義1コマに対して４．５時間の事前学習をすること。
関連科目	「工芸概論」と併せて工芸の知識を深める。
課題に対するフィードバックの方法	レポートに含まれる質疑応答については、各講義の担当教員からの情報をまとめて総括の時間に行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-BA103L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	日本住居史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上　年和	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	建築史研究、歴史的建造物の調査研究、設計・施工に必要となる基本的な知識を習得する。
授業概要	日本の伝統的な住居について、変遷過程や形態、特徴を史料、遺構等に基づき解説する。 建築学科のディプロマポリシーの１、２に係る。
授業計画 授業内容	全15 回 第１回 オリエンテーション　史跡と古墳 第２回 原始的な住居と集落 第３回 都城と宮殿 第４回 寝殿造 第５回 書院造 第６回 城郭 第７回 武家屋敷 第８回 都市と村落 第９回 民家 第10回 町屋（町家） 第11回 劇場 第12回 茶室と数寄屋 第13回 近代和風建築 第14回 洋風住宅 第15回 歴史的な町並み
成績評価	レポートおよび定期試験結果により評価を行う。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書　参考資料	日本建築学会『日本建築史図集』彰国社、小沢朝江・水沼淑子『日本住居史』吉川弘文館
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
関連科目	日本建築史、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	期末試験を実施し、試験後に解答を公開する。
教員の実務経験	文化財建造物修復、歴史的建造物設計監理
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-BA105L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	日本建築史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	設計・施工、研究に必要な伝統建築に関する基礎的な知識・歴史観を習得する。
授業概要	社寺建築を中心に様式や形式の変遷、その建築的特徴について遺構、史料に基づき解説する。 また歴史的建造物の保存修復について、その理念や手法を説明する。 本科目は建築学科のディプロマポリシーの１、２に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回 導入～建築史学の様式史観と文化財保存修理の歴史 第２回 伝統建築の基礎用語と形式概念 第３回 神社建築（１）古代の社殿～伊勢・出雲・住吉 第４回 神社建築（２）中世の社殿 第５回 寺院建築（１）仏教建築の伝来～飛鳥時代の建築 第６回 寺院建築（２）和様の誕生～奈良時代の建築 第７回 寺院建築（３）国風化の進展～平安時代の建築 第８回 寺院建築（４）中世の新しい様式と構造形式の変化 第９回 寺院建築（５）桃山時代の優美な建築 第10回 寺院建築（６）江戸時代の多様な建築 第11回 大工道具と継手仕口の発展史・木材からみた建築史 第12回 造形・細部意匠からみた建築史～木割・軒反り・絵様・彫刻 第13回 近代日本の建築（１）明治時代の建築 第14回 近代日本の建築（２）震災以後の建築と近代和風 第15回 歴史的建造物の保存と修理技術
成績評価	レポートおよび定期試結果により評価を行う。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書　参考資料	日本建築学会『日本建築史図集』彰国社、近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版、太田博太郎『日本建築史序説』彰国社
履修上の注意	配布資料、 講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	講義１コマに対し、4.5 時間の予習復習をすること。 （具体的な内容） 配布資料、講義ノートより予習復習を行うこと。
関連科目	日本住居史、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	期末試験を実施し、試験後に解説する。
教員の実務経験	有
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-BA210L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築計画Ⅰ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	建築を具体的な形にしていく計画・設計手法とそのために必要となる基礎的知識を学び、その知識を活用できるようになること。
授業概要	建築に携わる者にとって基礎的で必須の教科。建築そのものを理解するための基礎知識や建築計画・設計に要求される知識・技術、計画・設計手法を体系的に学習する。 前半において計画の基礎となる人間の知覚と行動、建築空間の性能、形態、後半において設計の基礎となる建築の計画手法、空間構成の技法、外部空間の構成手法、計画の表現技法などを学習する。建築設計関連の演習と相関した授業計画としている。 建築学科のディプロマポリシーの１．２．３．４に係る。
授業計画 授業内容	全15 回 第 1回 ガイダンス、建築計画の目的、意義など 第 2回 人間の知覚と行動１：（形態知覚の特性、心理環境と形態） 第 3回 人間の知覚と行動２：（人間の行動と形態） 第 4回 寸法と規模の計画１：（寸法の計画） 第 5回 寸法と規模の計画２：（単位空間の寸法） 第 6回 空間の性能１：（空間の機能、安全性） 第 7回 空間の性能２：（耐久性、経済性、省エネルギー） 第 8回 空間の形態：（地理的環境と形態、機能と形態） 第 9回 計画の技法１：（設計プロセス） 第10回 計画の技法２：（空間構成のエレメント） 第11回 空間構成の技法 第12回 造形技法 第13回 外部空間の構成と配置計画１：（外部空間のスケール、歩行空間の形態） 第14回 外部空間の構成と配置計画２：（外部空間の構成、建物の配置形態） 第15回 表現技法 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	「小レポート(小テスト)＋期末試験(期末レポート)」により成績評価を行う。 授業態度（出席も含め30%）も考慮し、最終成績とする。
教科書	「現代建築学　新訂　建築計画1」　岡田光正著他　鹿島出版会
参考書　参考資料	第3版「コンパクト建築設計資料集成」 日本建築学会　丸善株式会社
履修上の注意	基礎教養として社会の仕組みをある程度理解し、建築に関わる現代的問題をニュース等から情報を得て、自らの課題として認識しようとすること。また、人間の行動実態や豊かな生活環境のあり方等に興味をもち、授業で学んだこと・考えたことと日々の生活との関わりを知ろうとする心掛け・行動が重要である。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 教科書や配布資料を読み、建築計画に関わる考え方を感覚的に理解すること。また具体的な単語や数値を覚えること。
関連科目	「建築設計導入実習」、「建築設計基礎演習Ⅰ、Ⅱ」、「建築概論」、「建築計画Ⅱ、Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	小レポート（小テスト）のフィードバックを次回以降の講義内もしくはクラスルームで行う予定である。
教員の実務経験	10年以上の設計実務経験を有する。
教員の実務経験有無	有り
科目ナンバリング	COM-BA114L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	芸術学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 高田　光雄	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	建築学の深い成り立ちと多様な広がりを理解し、建築に対する幅広い視野を身につける。同時に、受け身で知識を習得するのではなく、自ら問いを発して、自ら考え、自ら答えるという研究の基本を身につけ、大学での学び方を習得する。
授業概要	建築学は「建築とは何か」という問いに始まり、「建築とは何か」という問いに終わる。 そして、その問いは無数の問いに細分化される。本講義では、建築学をめぐる多数の問いを投げかけ、具体的な建築作品や研究事例を用いた各問いの考察を通じて、建築の魅力と建築学の醍醐味に触れ、各自が「建築とは何か」という問いに向き合う構えに接近する。建築学科のディプロマポリシー１、２、３、４に該当する。
授業計画 授業内容	全15回　14の建築への問い 第１回　講義概要・建築とは何かという問い 第２回　建築を京都で学ぶ意味は何か 第３回　建築や都市の歴史を学ぶ楽しみとは何か 第４回　修復の世界とは何か 第５回　路地から見る京都とは何か 第6回　環境共生住宅とは何か 第7回　建築企画とは何か 第8回　まちづくりとは何か 第9回　建築の「しぶさ」とは何か 第10回　ジョン・ラスキンとは誰か 第11回　建築の文化的価値とは何か 第12回　アジアの伝統住居とは何か 第13回　伝統建築はいかにして設計されたのか 第14回　建築の寸法はどのように決めるのか 第15回　講義まとめ
成績評価	「小レポート(小テスト)＋期末試験(期末レポート)」により成績評価を行う。 授業態度（出席も含め30%）も考慮し、最終成績とする。
教科書	なし
参考書　参考資料	講義において紹介する。
予習・復習指導	各講義内容を自分に対する問いとして整理するとともに、それに答える試みを重ねること。 １コマに対し、4.5時間の復習をすること
関連科目	建築学科全科目
課題に対するフィードバックの方法	講義の中で質疑・応答などを行う。
教員の実務経験	32年間の各種建築計画・設計実務経験を有する。また、大学の専任教員として11年間の実務経験を有する。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-BA102L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	工芸概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村　嘉章	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	・広く工芸全般の意味を理解する。 ・工芸に対する広い視野を身につける。
授業概要	広く工芸の意味を理解すると共に、古くから伝わる工芸が世界のそして日本の文化としていかに我々の生活に定着しているかを各専門分野の切り口をとおして論じる。 芸術学部のディプロマポリシー1、2、3、4に該当する
授業計画 授業内容	オムニバス / 全 15 回 第 1～3回　陶磁器業界の近況と今後を概観すると共に、「ものづくり」の変遷を成形技法、加飾技法、素材などを通じて解説し、工芸への理解を深める。(横山直範) 第 4～7回　物造りという観点から時代をさかのぼり彫刻作品、仏像彫刻作品が、生活に定着し馴染んできたか、映像、写真資料を参考に学ぶ。(青木太一) 第 8～10回　木工の技術・材料・デザイン等の解説。現在活躍している工芸家の作品・映像等を通して多様な工芸のスタイルを紹介する。(玉村嘉章) 第11～14回　伝統的な漆工芸品の歴史、構造、制作技法、諸道具について、また漆工芸を支える素材の内、主に国産漆の現状について概略を説明する。(遠藤公誉) 第 15 回　　総括(玉村嘉章) ※順番が前後する場合や担当者が変更になる可能性があります。
成績評価	毎回実施する小レポートにより評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書　参考資料	『工芸の見かた感じ方』(東京国立近代美術館工芸課編淡交社)
履修上の注意	各講師が指示する内容のレポートを提出する。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の復習をする事。 配布資料や講義内容から、専門用語(作品・作家・技法など)について復習し、関連用語(作品・作家・技法など)についても調べるなど理解を深めておくこと。
関連科目	「伝統工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	ART-BA101L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	構成基礎演習（建築）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 江本　弘	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
特任教授	小梶　吉隆	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	・造形物の様々な特性を理解する。 ・平面・立体構成の感覚、空間把握能力を養う。 ・自身の考えを描写を通じて具現化し、他者に伝える能力を習得する。
授業概要	本科目では造形の基礎演習として、形を生み出す上で最も重要な線の描き方と構成の方法を、様々な事物を描写する中で体得し、かつ描き出したものから発見的に考察していく。まず自身の身近なものを描くことから始め、次に平面での構成の練習、そして平面から立体空間構成への展開、最後に総合的な課題として、家具（椅子）による立体空間を構成しその描写を行う。 建築学科のディプロマポリシーの１，２に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回　　オリエンテーション：授業の目標や留意点等の説明 作図課題１ 　　起こし絵課題１：出題（課題説明、実測説明） 第2回　　起こし絵課題２：実測図の作成 第3回　　起こし絵課題３：起こし絵の作成 第4回　　起こし絵課題４：作品発表、 平面構成課題１：構成への発展、点と線 第5回　　作図課題２：インテリアスケッチ 第6回　　平面構成課題２：平面構成作画 第7回　　立体課題①-１：ミースパチンコ 第8回　　立体課題①-２：ミースパチンコ 第9回　　立体課題②-１：小篠邸を埋めこむ 第10回　　立体課題②-２：小篠邸を埋めこむ 第11回　　総合課題１：椅子のデザイン 第12回　　総合課題２：椅子のデザイン 第13回　　総合課題３：椅子のデザイン 第14回　　総合課題４：椅子のデザイン 第15回　　合評、総括
成績評価	受講態度（20%）、各課題提出物の評価（80%）
教科書	特になし
参考書　参考資料	必要に応じて参考資料を配布する。 その他の参考書として、 小沢剛、塚本由晴著『線の演習 建築学生のための美術入門』 小嶋一浩、伊藤香織、他編著『空間練習帳』 フランシス・D・K・チン著、太田邦夫訳『建築ドローイングの技法』
履修上の注意	毎回の授業に積極的に参加すること。また、提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	各回1.5時間の予習復習をすること。 授業内に終了しなかった作品の完成、ならびにより良い作品作りに向けて作業を行うこと。
関連科目	「建築設計導入実習」「建築設計基礎演習Ｉ」「デザイン作図演習」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-BA104S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築材料		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	建築物の設計に必要となる材料選定の基本を理解する。
授業概要	建築材料への見識を深めることにより、設計の魅力と可能性を学ぶ。その学ぶことと実社会との間にリアリティを持たせるため、素材の産地や職人技術、手加工と機械加工の世界、その歴史的背景や現代的側面についても学ぶ。建築学科のディプロマシーに１に係わる。
授業計画 授業内容	第１回　建築材料概論 第２回　木材についての講義 第３回　木質材料についての講義 第４回　植物材料についての講義 第５回　金属材料（スチール・ステンレスなど）についての講義 第６回　非鉄金属材料（アルミニウム・チタン・銅など）についての講義 第７回　コンクリートについての講義 第８回　セメント・コンクリートについての講義 第９回　石についての講義 第10回　土・漆喰・石膏についての講義 第11回　焼成材料（タイル、レンガ、瓦など）についての講義 第12回　ガラス、プラスチックについての講義 第13回　レポート発表会 その1 第14回　レポート発表会 その2 第15回　その他の材料についての講義
成績評価	レポート及び期末試験により、総合的に評価する。
教科書	朝吹香菜子、他著「建築材料　新テキスト」彰国社
参考書　参考資料	藤森照信著「藤森照信、素材の旅」新建築社 JA109/隈研吾特集「Kengo Kuma:a LAB for materials」新建築社
履修上の注意	日頃から、身の回り、街中、建築雑誌で見かける様々な材料を観察する。興味を持ったら調べる。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 教科書の熟読、実際に当該材料が使われている建物を調べてみる。
関連科目	建築施工法
課題に対するフィードバックの方法	授業中にレポート発表（代表者数名）をしてもらい、講評と総括をする。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA215L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	近代建築史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	芸術学部：美術工芸科目　基幹科目、　建築学部：美術工芸科目　展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 江本　弘	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	①　現代までに至る、建築・都市の近代化過程についての大枠・流れを理解すること。 ②　①の理解に際し、建築家・建築作品のみに着目せず、その背景（地理・社会・文化など）をふまえて考察できるようになること。
授業概要	この授業は現在の建築環境に関わる、建築・都市の近代化過程についての講義を行う。わたしたちの暮らしのまわりや雑誌媒体では、日々さまざまな建築が生まれ、わたしたちの目に触れている。本科目は、そうした身近な現代建築がつくられる世界的状況を俯瞰的に理解するために、現代から逆行するかたちで近現代建築史を語りおこす。 本科目は建築学科ディプロマポリシーの１，3に該当する。
授業計画 授業内容	全15コマ 1.　ガイダンス 2.　近現代建築史を読み解く視点：教科書の構成から 3.　21世紀の建築へ 4.　ポスト・モダニズム（１）：1980年代～ 5.　ポスト・モダニズム（２）：1960年代末～ 6.　戦後建築史（１）：1960年代 7.　戦後建築史（２）：終戦～1950年代 8.　モダニズム（１）：1930年代 9.　モダニズム（２）：1930年代の日本 10.　モダニズム（３）：1920年代 11.　モダニズム（４）:1920年代の日本 12.　建築の世紀初頭 13.　建築の世紀末 14.　日本の状況：明治維新以降 15.　19世紀の建築理論へ ※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	毎回配布する小レポート（60%）と期末レポート（40%）により総合的に評価する。レポートの課題内容については追って知らせる。
教科書	本田昌昭、末包伸吾『テキスト建築の20世紀』
参考書　参考資料	日埜直彦『日本近現代建築の歴史 明治維新から現代まで』 江本弘『歴史の建設――アメリカ近代建築論壇とラスキン受容』
履修上の注意	講義では、西洋・日本近代の大まかな流れにポイントを絞って解説する。そのため、建築家・建築作品等の詳細な内容については、教科書や参考書、その他の書籍から情報を自発的に得ること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 （具体的な内容） 予習：　次回授業の該当年代にあたる建築物等について教科書で確認する。 復習：　講義内容の整理。関連文献（別途指示）の参照。
関連科目	「伝統住居概論」「伝統空間論」「伝統建築論 Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う予定。
教員の実務経験	有／建築設計（三井嶺建築設計事務所2017-18）
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ART-MA202L、AATDE227L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	社寺建築論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	4		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上　直樹	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	社寺建築を単に様式で捉えるのではなく、決定された寸法の根拠や意味まで深く考察できる知識と思考法を体得する。
授業概要	「社寺建築概論」で得た様式上の基礎知識のうえに、社寺建築の各部構造がどのような設計原理と様式によって決定がなされてきたかについて論じ、社寺建築の本質にせまろうとする。 建築学科のディプロマポリシーの１、２に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　授業ガイダンス　　社寺建築を理解するための基礎知識 第２回　基礎廻りの構造と様式的変遷 第３回　軸部の構造と様式的変遷 第４回　組物の構造と様式的変遷　その１　古代・中世の組物 第５回　組物の構造と様式的変遷　その２　近世の組物と中備 第６回　軒の構造と様式的変遷　その１　古代・中世の軒 第７回　軒の構造と様式的変遷　その２　近世・近代の軒 第８回　軒の構造と様式的変遷　その３　扇垂木 第９回　小屋組みの構造と様式的変遷 第10回　屋根葺きの構造と様式的変遷 第11回　天井の構造と様式的変遷 第12回　建具の構造と様式的変遷 第13回　細部意匠論　その１　木鼻・虹梁 第14回　細部意匠論　その２　高欄・格狭間・その他 第15回　授業のまとめ
成績評価	レポートで評価をおこなう
教科書	近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版
参考書　参考資料	滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県、文化財建造物保存技術協会などが刊行した文化財建造物修理工事報告書
履修上の注意	「社寺建築概論」の既習を条件とする
予習・復習指導	日頃から文化財建造物の修理工事報告書に慣れ親しんでほしい。そこから常識ではなく、実物から復元することができる知識、能力を学びたい。また現地に赴き実際の社寺建築を見学する行動力と観察眼を身につけたい。
関連科目	「社寺建築概論」「伝統建築図」
課題に対するフィードバックの方法	提出したレポートに対して講評・質疑応答をおこなう
教員の実務経験	担当教員は文化財建造物修理事業における設計監理に30年以上従事しており、とくに伝統建築のうちでも社寺建築について十分な経験がある。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAR-MA423L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	ＩＴ活用応用演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 宮内　智久	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	山内　貴博	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	黒田　祐五	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	中村　卓	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	・2次元CAD（Computer Aided Design）の意義をより深く理解するとともに、その実践のためにAutodesk AutoCADの発展的な操作法を習得する。 ・BIM（Building Information Modeling）の意義を理解するとともに、その実践のためにGraphisoft Archicadの基礎的な操作法を習得する。 ・建築設計作品の制作過程、およびプレゼンテーションにおけるコンピューターレンダリングと動画制作の意義を理解するとともに、その実践のためにalphacox Twinmotionの基礎的な操作法を習得する。
授業概要	昨今、建築に関連する実務上、2次元および3次元 CAD（Computer Aided Design）は必須のスキルとなっている。こうした現状を踏まえ、本演習では2次元および3次元 CAD、および3次元 CADの発展形であり、近年目覚ましく普及しつつあるBIM（Building Information Modeling）の、建築設計作品の制作過程、およびプレゼンテーションにおける意義を理解する。その上で、総合的な建築設計・表現能力の向上に向け、それらのソフトウェア（Autodesk AutoCAD、Graphisoft Archicad、alphacox Twinmotion）の基礎的および応用的な操作法を習得する。 建築学科ディプロマポリシー1および2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回、週1回・2コマ 第1回　ガイダンス、AutoCAD①（基本操作の復習） 第2回　AutoCAD②（応用操作） 第3回　AutoCAD③（同上） 第4回　Archicad①（基本操作：インストールとサンプルのモデリング） 第5回　Archicad②（同上） 第6回　Archicad③（同上） 第7回　Archicad④（応用操作：自身の設計作品のモデリング） 第8回　Archicad⑤（同上） 第9回　Archicad⑥（同上） 第10回 Twinmotion①（インストールとBIMモデルのインポート） 第11回 Twinmotion②（レンダリング応用） 第12回 Twinmotion③（同上） 第13回 Twinmotion④（動画制作） 第14回 Twinmotion⑤（同上） 第15回 Twinmotion⑥（成果品のプレゼンテーション、講評） ※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	下記に基づき総合的に評価する。 ・学習状況（30%、演習の円滑な進行への貢献を含む） ・課題に対する成果品（70%、全課題に対する成果品の提出を必須とする）
参考書　参考資料	・教員作成資料 ・「デザインの学校 これからはじめる AutoCADの本 ［AutoCAD/AutoCAD LT 2020/2019/2018対応版］」稲葉幸行著、技術評論社 ・「Autodesk AutoCAD 2022公式トレーニングガイド」井上竜夫著、日経BP ・「ARCHICAD 22ではじめるBIM設計入門[基本・実施設計編]」 BIM LABO 著、エクスナレッジ ・「CADの基礎と演習 ーAutoCAD2011を用いた2次元基本製図ー」赤木徹也他著、共立出版
履修上の注意	VDT（Visual Display Terminals＝PCなどの情報端末）作業が中心となるため、作業環境維持（各種IDとパスワードの管理など）、作業データ管理（こまめなバックアップなど）、健康管理（特に眼精疲労）に注意を払うこと。 演習で配布された、あるいは各自収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。 課題に対する成果物の提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	コンピューターソフトウェアの操作法の習得は、特に基礎段階では積み上げの性質が強く、つまずきを放置するとその先の学習がままならない。そのため、常に十分な予習復習により、各回の演習内容を確実に習得すること。 演習で扱う題材に関連する建築の実作品や提案の各媒体におけるプレゼンテーションの実例に対し、日頃から留意し、自身の制作への反映を視野に分析を行うこと。
関連科目	「情報基礎演習」および「コンピュータデザイン演習」の履修および合格を本科目の履修条件とする。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに全体講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ART-MA211S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	ＩＴ活用応用演習（Cｸﾗｽ）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上　晋一	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	・2次元CAD（Computer Aided Design）の意義をより深く理解するとともに、その実践のためにAutodesk AutoCADの発展的な操作法を習得する。 ・BIM（Building Information Modeling）の意義を理解するとともに、その実践のためにGraphisoft Archicadの基礎的な操作法を習得する。 ・建築設計作品の制作過程、およびプレゼンテーションにおけるコンピューターレンダリングと動画制作の意義を理解するとともに、その実践のためにalphacox Twinmotionの基礎的な操作法を習得する。
授業概要	昨今、建築に関連する実務上、2次元および3次元 CAD（Computer Aided Design）は必須のスキルとなっている。こうした現状を踏まえ、本演習では2次元および3次元 CAD、および3次元 CADの発展形であり、近年目覚ましく普及しつつあるBIM（Building Information Modeling）の、建築設計作品の制作過程、およびプレゼンテーションにおける意義を理解する。その上で、総合的な建築設計・表現能力の向上に向け、それらのソフトウェア（Autodesk AutoCAD、Graphisoft Archicad、alphacox Twinmotion）の基礎的および応用的な操作法を習得する。 ・建築学科ディプロマポリシー1および2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回、週1回・2コマ 第1回　ガイダンス、AutoCAD①（基本操作の復習） 第2回　AutoCAD②（応用操作） 第3回　AutoCAD③（同上） 第4回　Archicad①（基本操作：インストールとサンプルのモデリング） 第5回　Archicad②（同上） 第6回　Archicad③（同上） 第7回　Archicad④（応用操作：自身の設計作品のモデリング） 第8回　Archicad⑤（同上） 第9回　Archicad⑥（同上） 第10回 Twinmotion①（インストールとBIMモデルのインポート） 第11回 Twinmotion②（レンダリング応用） 第12回 Twinmotion③（同上） 第13回 Twinmotion④（動画制作） 第14回 Twinmotion⑤（同上） 第15回 Twinmotion⑥（成果品のプレゼンテーション、講評） ※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	下記に基づき総合的に評価する。 ・学習状況（30%、演習の円滑な進行への貢献を含む） ・課題に対する成果品（70%、全課題に対する成果品の提出を必須とする）
参考書　参考資料	・教員作成資料 ・「デザインの学校 これからはじめる AutoCADの本　[AutoCAD/AutoCAD LT 2020/2019/2018対応版]」稲葉幸行著、技術評論社 ・「Autodesk AutoCAD 2022公式トレーニングガイド」井上竜夫著、日経BP ・「ARCHICAD 22ではじめるBIM設計入門[基本・実施設計編]」 BIM LABO 著、エクスナレッジ
履修上の注意	VDT（Visual Display Terminals＝PCなどの情報端末）作業が中心となるため、作業環境維持（各種IDとパスワードの管理など）、作業データ管理（こまめなバックアップなど）、健康管理（特に眼精疲労）に注意を払うこと。 演習で配布された、あるいは各自収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。 課題に対する成果物の提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	コンピューターソフトウェアの操作法の習得は、特に基礎段階では積み上げの性質が強く、つまずきを放置するとその先の学習がままならない。そのため、常に十分な予習復習により、各回の演習内容を確実に習得すること。 演習で扱う題材に関連する建築の実作品や提案の各媒体におけるプレゼンテーションの実例に対し、日頃から留意し、自身の制作への反映を視野に分析を行うこと。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに全体で講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ART-MA211S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	コンピュータデザイン演習（建築）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	黒田　祐五	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	中村　卓	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	・グラフィックデザインの意義を理解するとともに、その実践のためにAdobe PhotoshopおよびIllustratorの基礎的な操作法を習得する。 ・2次元CAD（Computer Aided Design）の意義を理解するとともに、その実践のためにAutodesk AutoCADの基礎的な操作法を習得する。 ・建築設計作品のデジタル・プレゼンテーションの意義を理解するとともに、その実践のために上記のソフトウェアを活用する。
授業概要	本演習では、まずデザインにおけるコンピューターソフトウェアの身近な活用事例を概観し、その意義を理解しながら、代表的なグラフィックデザインソフトウェアであるAdobe PhotoshopおよびIllustratorを使用し図形描画や画像処理の基礎を習得する。 次に、建築に関連する実務上、近年広く活用されているCAD（Computer Aided Design）のうち、2次元CADの意義を理解しながら、CADソフトウェアのひとつであるAutodesk AutoCADを使用し2次元CAD上の空間概念および基礎的な操作法を習得する。 最後に、これらのソフトウェアを駆使し、2次元媒体における建築設計図面の作成、および建築設計作品の総合的なプレゼンテーションの能力の向上を目指す。 建築学科ディプロマポリシー4に該当する。
授業計画 授業内容	全15回、週1回・2コマ 第1回　ガイダンス、コンピューターを用いたデザインの基本概念 第2回　Illustrator①（基本操作、テキスタイルのトレース【課題1】） 第3回　Illustrator②（フォントの基礎、デザインコンセプトの構築） 第4回　Illustrator③（ロゴマークのデザイン【課題2】） 第5回　Illustrator④（課題2の成果品の講評） 第6回　Photoshop①（基本操作、写真の加工） 第7回　Photoshop②（写真の合成【課題3】） 第8回　AutoCAD①（基本図形の描画） 第9回　AutoCAD②（建築図面の描画） 第10回　AutoCAD③（モデル空間とペーパー空間、ペン設定、印刷） 第11回　AutoCAD④（異尺度図面の印刷【課題4】） 第12回　総合課題① 第13回　総合課題② 第14回　総合課題③ 第15回　総合課題④（成果品のプレゼンテーション、講評） ※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	下記に基づき総合的に評価する。 ・学習状況（30%、演習の円滑な進行への貢献を含む） ・課題に対する成果品（70%、全課題に対する成果品の提出を必須とする）
教科書	「Illustrator & Photoshop & InDesign これ1冊で基本が身につくデザイン教科書」阿部信行著、技術評論社
参考書　参考資料	・教員作成資料 ・「デザインの学校 これからはじめる AutoCADの本　[AutoCAD/AutoCAD LT 2020/2019/2018対応版]」稲葉幸行著、技術評論社 ・「Autodesk AutoCAD 2022公式トレーニングガイド」井上竜夫著、日経BP ・「CADの基礎と演習 ーAutoCAD2011を用いた2次元基本製図ー」赤木徹也他著、共立出版
履修上の注意	VDT（Visual Display Terminals＝PCなどの情報端末）作業が中心となるため、作業環境維持（各種IDとパスワードの管理など）、作業データ管理（こまめなバックアップなど）、健康管理（特に眼精疲労）に注意を払うこと。 演習で配布された、あるいは各自収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。 課題に対する成果物の提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	コンピューターソフトウェアの操作法の習得は、特に基礎段階では積み上げの性質が強く、つまずきを放置するとその先の学習がままならない。そのため、常に十分な予習復習により、各回の演習内容を確実に習得すること。 演習で扱う題材に関連するグラフィックデザイン、および建築の実作品や提案の各媒体におけるプレゼンテーションの実例に対し、日頃から留意し、自身の制作への反映を視野に分析を行うこと。
関連科目	・「情報基礎演習」の履修および合格を本科目の履修条件とする。 ・本科目の履修および合格を「IT活用応用演習」の履修条件とする。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに全体講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ART-MA112S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	伝統建築図（応用）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上　直樹	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	伝統建築特に社寺建築特有の納まりや細部意匠の製図法を学ぶとともに製図道具の使い方を習得する。特に詳細図を中心に演習をおこない伝統建築における設計基準、寸法決定の流れを理解する。
授業概要	伝統建築の基礎的な納まりや寸法決定の流れを把握し、より高度な図面作成技術を習得するため、各回課題ごとに代表的な伝統建築の詳細図面を作図する。 また伝統建築の彩色技法についても演習をおこなう。 建築学科のディプロマポリシーの２、３に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　授業ガイダンス　授業の目的、課題説明、製図道具の説明 第２回　伝統建築図面の基礎/√２～√４の作図　格子戸の割付け 第３回　伝統建築図面の細部意匠(1)/組物　中世和様 第４回　伝統建築図面の細部意匠(2)/蟇股　古代本蟇股　中世本蟇股 第５回　伝統建築図面の細部意匠(3)/木鼻　中世大仏様　中世禅宗様 第６回　伝統建築図面の細部意匠(4)/木鼻　近世大工文書から 第７回　伝統建築図面の細部意匠(5)/破風板　近世神社本殿 第８回　伝統建築図面の細部意匠(6)/彩色技法　近世神社本殿 第９回　伝統建築図面の細部意匠(7)/彩色技法　近世神社本殿 第10回　伝統建築図面の細部意匠(8)/彩色技法　近世神社本殿 第11回　伝統建築図面の納まり(1)/軒廻り 中世和様 第12回　伝統建築図面の納まり(2)/詳細図　中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第13回　伝統建築図面の納まり(3)/詳細図　中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第14回　伝統建築図面の納まり(4)/詳細図　中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第15回　図面の提出　講評 また授業では伝統建築特有の製図技法を学ぶために製図道具(烏口、面相筆、撓い定規等)の使用法も体験する。 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	すべての課題の提出図面によって成績評価する。
教科書	課題ごとに、資料を適宜配布する。
参考書　参考資料	日本建築史基礎資料集成（中央公論美術出版）、国宝、重要文化財修理工事報告書等
履修上の注意	毎回課題が提示されるため毎回の出席が望まれる。 また毎回授業時間内に課題を完成させることに努め、完成しない場合は時間外に作図をおこなうこと。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること
関連科目	伝統建築専門実習への展開、履修することを薦める科目；伝統建築図（基礎）・(発展)
課題に対するフィードバックの方法	提出課題に対して講評・質疑応答をおこなう
教員の実務経験	大上教授は文化財建造物の解体修理事業に約40年近く従事しており、数多くの文化財建造物の設計監理の経験がある。また伝統建築の図面(文化庁に提出する永久保存図)も多数調製しており、伝統建築の製図法については熟知している。
科目ナンバリング	ART-DE307S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築施工法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任准教授	◎ 河村　大助	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	建築生産(1企画・計画、2設計、3施工、4保全、5解体・廃棄)の一連の流れを理解する。更に、各生産工程の中での、ステークホルダー、契約図書、関連法規、建築材料、工法の位置づけ、関連を理解することで建築生産についての理解を深める。
授業概要	この授業は将来、建築設計・インテリア・施工等に関わる職業を志望する学生諸君を対象に、「建物はどのようにつくられ、どの様な一生をたどるか」について具体的にビジュアルで示しつつ平易に解説する。 まず、施工については、準備、仮設工事から、本設工事、竣工検査までの全体プロセスを重視し、各種の工法的特徴、前後工事との関係などに重点を置いた説明を行う。 更に、施工の前段階である計画・設計および完成後の維持管理、リニューアル、そして、解体まで視野に入れた内容とすることにより、建物の一生を俯瞰する建築生産論の理解を目指す。 本科目は、建築学部のディプロマポリシーの１、カリキュラムポリシーの３に該当する。
授業計画 授業内容	全15回×90分 第1回　ガイダンス、建築生産とは１、小テスト 第2回　建築生産とは２、小テスト 第3回　解体工事、小テスト 第4回　準備工事（調査）、小テスト 第5回　準備工事（仮設）・山留め工事、小テスト 第6回　杭工事、土工事、小テスト 第7回　躯体工事（コンクリート）１、小テスト 第8回　躯体工事（コンクリート）２、小テスト 第9回　躯体工事（鉄骨）３、小テスト 第10回　外装工事、小テスト 第11回　内装工事、小テスト 第12回　設備工事、小テスト 第13回　外構・その他工事・竣工、小テスト 第14回　維持・保全・改修、小テスト 第15回　建築生産とデザイン、総括
成績評価	出席態度（３０点）、各授業の最後に小テスト（７０点）を実施して評価する。
教科書	「施工がわかる イラスト建築生産入門」 日本建設業連合会編 彰国社
参考書　参考資料	授業の中で随時紹介する
履修上の注意	各授業の中で随時指示する。
予習・復習指導	1講義(1コマ)に対して2時間の復習をすること。
関連科目	「建築一般構造Ⅰ・Ⅱ」、「建築材料」、「建築設備」、「建築法規」、「建築構造力学Ⅰ・Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	小テストについては、次の講義の冒頭で、回答及びポイントの解説を行う。
教員の実務経験	30年の建築設計・工事監理の実績、および、5年のCM（コンストラクションマネジメント）実績を持つ。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ART-DE312L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	公共デザイン論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 宮内　智久	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	公共物に対するデザインについて全般的な内容および価値観等を理解し、都市空間における問題点を解決する能力を養う。
授業概要	公共物、空間の社会的役割、文化的価値について、そのデザインを検証し講述する。 本学ディプロマポリシー１、２、３に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　人生のデザイン 第２回　発想のデザイン 第３回　思考のデザイン 第４回　プロセスのデザイン 第５回　見せ方のデザイン 第６回　認知のデザイン 第７回　記憶のデザイン 第８回　夢のデザイン 第９回　見せ方のデザイン 第10回　体験のデザイン 第11回　公のデザイン 第12回　景観のデザイン 第13回　再生のデザイン 第14回　循環のデザイン 第15回　生き延びるためのデザイン ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	授業態度60%、レポート各20%（合計２回）
教科書	配布資料、映像等
参考書　参考資料	「LIFE SHIFT(ライフ・シフト)100年時代の人生戦略」 アンドリュー スコット，リンダ グラットン他 「カミング・バック・トゥ・ライフ―生命への回帰 つながりを取り戻すワークの手引き」 ジョアンナ・メイ シー，モリー・ヤング・ブラウン 「繊細さは、これからの時代の強さです―とんでもなく生きづらい世の中でエンパスのパワーを発揮する!」 アニータ・ムアジャーニ 「デザイン思考が世界を変える」 ティム ブラウン 「実践 スタンフォード式 デザイン思考 世界一クリエイティブな問題解決」 ジャスパー・ウ 「突破するデザイン」 ロベルト・ベルガンティ 「新 クリエイティブ資本論―才能が経済と都市の主役となる」 リチャード・フロリダ 「フリーエージェント社会の到来―「雇われない生き方」は何を変えるか」 ダニエル ピンク 「幸福の「資本」論―あなたの未来を決める「3つの資本」と「8つの人生パターン」」橘 玲 「10年後の仕事図鑑」 堀江 貴文，落合 陽一 「多動力」 堀江貴文 「ハウ・トゥ アート・シンキング 閉塞感を打ち破る自分起点の思考法」 若宮 和男 「直感と論理をつなぐ思考法 VISION DRIVEN」 佐宗 邦威 「リサーチ・ドリブン・イノベーション 「問い」を起点にアイデアを探究する」 安斎 勇樹 「ソーシャルデザイン実践ガイド―地域の課題を解決する7つのステップ」 筧 裕介 「プロセスエコノミー あなたの物語が価値になる」 尾原 和啓 「アフターコロナのニュービジネス大全 新しい生活様式×世界15カ国の先進事例」 原田 曜平 「路上と観察をめぐる表現史」フィルムアート社 「復刻 デザイン・サーヴェイ」彰国社 「住み継がれる家の価値総集編」財）勤労者住宅協会 「シビックデザイン自然、都市、人々の暮らし」大成出版社 「カラーコーディネーションの実際」環境色彩　東京商工会議所 他
履修上の注意	講義内容はオムニバス形式である。ゲストを招いた講義も予定。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 講義前に配布される資料をよく読み込むこと。 各回講義で扱う用語の概念をできるだけ調べ理解に努めること。
関連科目	建築計画Ⅱ　建築計画Ⅳ　伝統建築論Ⅱ　デザイン概論　色彩理論演習
課題に対するフィードバックの方法	小レポートに関してフィードバックをする場合は、点数だけではなくコメント等を記載して返却する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-DE313L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築計画Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安田　光男	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	生活に関する多面的な知見に触れながら、住居に関する建築計画についての基礎的な専門知識の理解を深め、現代のライフスタイルに応じた住居の計画・設計を行える能力を身につける。
授業概要	住居は人間生活を行うためのシェルターであり、あらゆる建築物の起源と言われる。本講義では、「住まう」ということに関する、さまざまな原理・原則について、具体的な例を用いて解説を行う。「住まう」ことについての現代的なテーマについても触れながら、時代とともに変化していく、ライフスタイルに応じた居住空間の計画、設計に関する基本的な知識を学ぶ。建築学科のディプロマポリシーの２、３に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回　ガイダンス、住居の建築計画学について 第2回　ライフスタイルと社会の変化について 第3回　住空間の計画プロセス1 第4回　住空間の計画プロセス2 第5回　住宅の単位空間 第6回　住空間の機能と組織 第7回　住環境としつらえ 第8回　住居計画　（屋根と階段、開口部と水回り） 第9回　住居計画　（外構・植栽、住宅の構成） 第10回　住居計画　（住戸の定型とバリエーション） 第11回　集合住宅の系譜 第12回　集合住宅の種類と規模 第13回　現代における集合住宅 第14回　優秀レポート発表 第15回　総括・ディスカッション
成績評価	学習状況（30%）とレポート課題（30%）及び期末試験（40%）によって評価する。
教科書	「住むための建築計画」　佐々木誠著他　彰国社
参考書　参考資料	「住宅の計画学入門」　岡田光正著他　鹿島出版会
履修上の注意	住居に関する建築計画に関して、幅広く興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。
予習・復習指導	教科書の第1章から第5章を読み、専門用語や掲載されている実例の建築物について調べておくこと。一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「建築計画Ⅰ」「建築計画Ⅲ」「建築デザイン演習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	レポート課題については優秀レポート作成者の発表を通して総評を行う。 期末試験については解説・総評を掲示する。
科目ナンバリング	COM-MA213L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築計画Ⅳ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	建築保存計画学の基礎概念や現代的課題について理解する。また、それらをふまえて、建築空間の現代的再編・再生を目的とした、建築計画、設計、整備、運営のあり方や方法に関する基礎的知識と技術を習得する。（建築の設計・計画的側面の理解能力の獲得）
授業概要	現代の成熟社会における日常生活の豊かな場、建築とはどのようなものなのか。本講義では建築保存計画学の基礎的概念や現代的課題について概説するとともに、近代建築や京町家の保存、修復、再生について、計画・設計整備、運営などに関わる学理と実践について具体的に解説する。 また近代建築や町家などの保存修復、改修の事例をサーベイし、その後アクティブラーニングでグループディスカッションを行いまとめる。 建築学科のディプロマポリシー１、２、３、４に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　　講義概要・履修指導 第２回　　建築保存計画学とは何か 第３回　　建築の保存とは何か 第４回　　現代における文化財について 第５回　　建築保存の現場の取り組み 第６回　　近代建築の背景にあるもの 第７回　　京町家の仕組みと工法1 第８回　　京町家の仕組みと工法2 第９回　　京町家の改修の作法と工夫1 第１０回　京町家の改修の作法と工夫2 第１１回　近代建築・町家の改修事例のサーベイ 第１２回　文化財保存制度について1 第１３回　文化財保存制度について2 第１４回　文化財保存制度について3 第１５回　第１１回でサーベイしたものについて、アクティブラーニング
成績評価	改修事例のサーベイ内容（50点満点）と、アクティブラーニングによるレポートのまとめ（50点満点）の合計点が60点以上を合格とする。
教科書	なし（配布資料あり。パワーポイント、ビデオなどを使用）
参考書　参考資料	講義において紹介する。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して、4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	建築計画I、建築計画II、建築計画III
課題に対するフィードバックの方法	授業毎に小レポートをクラスルームに提出させ、質疑応答があればフィードバックを行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ARC-DE322L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	伝統建築論Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 白鳥　洋子	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	西洋、エジプト、イスラム、東洋の主要な歴史的建築について概要を把握し、基礎的な知識を身につける。時代や地域による建築の固有性を理解し、変遷を掴み、建築について論じる力を養う。
授業概要	古代エジプト、ギリシア、ローマ、西洋の中世、近世と各時代の主要な建築について概説を行う。さらに、イスラム、インド、アジアの主要な歴史的建築を概観し、地域や文化による建築の多様性を捉えて行く。世界の観点から歴史的建築について認識を深め、魅力を理解し、固有性と普遍性を捉えて行きたい。 本学ディプロマポリシー１、建築学部ディプロマポリシー１、３に該当する。
授業計画 授業内容	第1回：ガイダンス　エジプト・メソポタミアの建築 第2回：ギリシア建築 第3回：ローマ建築1 第4回：ローマ建築2 第5回：初期キリスト教建築　ビザンチン建築 第6回：イスラム建築　プレ・ロマネスク 第7回：ロマネスク建築 第8回：ゴシック建築 第9回：ルネサンス建築1 第10回：ルネサンス建築2 第11回：バロック建築 第12回：新古典主義、革命期の建築 第13回：19世紀の建築 第14回：西アジア、南アジアの建築 第15回：東アジア、東南アジアの建築
成績評価	評価ポイント：期末試験（60%）、小レポート（20%）、提出物（20%）
教科書	『西洋建築史図集』、三訂版、日本建築学会編、彰国社。
参考書　参考資料	『東洋建築史図集』、第1版、日本建築学会編、彰国社。桐敷真次郎、『西洋建築史』、共立出版。西田雅嗣、『西洋建築の歴史』、第1版、学芸出版社。その他は、適宜、講義中に提示する。
履修上の注意	西洋においても東洋においても優れた建築には新鮮な創造性、変遷や成熟、世界観があり、それらは現代の建築に置き換えて考えることができる。先人たちが残した遺産に学び、自身の制作や研究を深める契機にしてほしい。
予習・復習指導	講義（1コマ）に対して2時間の事前学習、2.5時間の復習を行うこと。 事前学習：次回講義の該当箇所について教科書、参考書を読み、概要を把握しておくこと。 復習：講義を振り返り、教科書、参考書を参照しながら、ノートを整理すること。
関連科目	近代建築史、日本建築史、現代の建築、芸術、哲学に関する科目。
課題に対するフィードバックの方法	期末試験終了後に模範解答をクラスルームに公開する。
教員の実務経験	フランスの大学の学位を持ち、長年に亘りヨーロッパで研究活動を行っている。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAR-DE217L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	伝統建築論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生川　慶一郎	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	髙田　光雄	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	白鳥　洋子	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	京町家や細街路（路地）の保全・継承・再生の意義、まちづくり（コミュニティ・デザイン）に関わる学理、方法、実践、社会システムを理解する。まちづくり（コミュニティ・デザイン）にかかわる実践的対応能力の開発を行う。 【参考】 京町家の保全・継承の意義は，京町家が連担し，自然と調和し，洗練され落ち着いた統一的な「町並み景観」，また伝統的な住まいやまちでの職住共存の暮らし方の中で積み重ねられてきた工夫や知恵の「生活文化」，それらを基盤とする京町家の現代的価値を問い直すことにある。（引用：京都市京町家保全・継承推進計画　平成31年2月策定）
授業概要	京町家を建物単体で取り扱うのではなく，それらが連担することや，集合体として形成している路地も含めて、それら関係性にも着目しながら、京都におけるまちの保全・継承・再生の意義を概説するとともに、京町家などの伝統的建築が残る生活空間の現代的再編・再生を目的としたまちづくり（コミュニティデザイン）に関する講義を行う。また、フィールドワークやワークショップの方法を学んだ上でまちづくりの現代的課題と実践にかかわる演習を行う。 建築学科のディプロマポリシー１、２、３、４に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回 第１回 講義概要・履修指導 第２回 町家・細街路・リノベーション(1) 第３回 京町家・細街路・リノベーション(2) 第４回 京町家・細街路・リノベーション(3) 第５回 フィールドワーク論(1) 第６回 フィールドワーク論(2) 第７回 フィールドワーク論(3) 第８回 まち歩き 第９回 フィールドワーク演習準備 第10回 フィールドワーク演習(1) 第11回 フィールドワーク演習(2) 第12回 演習発表・講評(1) 第13回 ワークショップ(1) 第14回 ワークショップ(2) 第15回 演習発表・講評(2) ※学習への理解、到達状況に加えて、コロナ等の感染状況応じて、フィールドワークの実施可否など適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	演習（40点満点）と 提出課題（60点満点）の合計点が60点以上を合格とする。
教科書	なし（配布資料あり、パワーポイントなどを使用）
参考書　参考資料	講義において紹介する。
履修上の注意	本講義中に行うフィールドワークには必ず出席し、ワークショップに臨むこと。 フィールドワーク時には、大学生としての自覚を持ち、事故のないよう注意すること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して、4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	伝統建築論I
課題に対するフィードバックの方法	演習ごとに講評・質疑応答などを行う。
教員の実務経験	調査研究実務経験豊富
科目ナンバリング	AAR-DE318L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	卒業制作・論文(文化財)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小林　泰弘	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
非常勤講師	田川　新一朗	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
非常勤講師	村上　隆	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
非常勤講師	坂本　ひかり	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	卒業制作の作品（論文も含め）の完成。
授業概要	卒業制作研究の記録をまとめ、卒業制作・卒業論文に向けて制作を行う。 芸術学部のディプロマポリシーの1、2、3、4に該当する。
授業計画 授業内容	全15週/3回 第1週　　卒業制作 第2週　　卒業制作 第3週　　卒業制作 第4週　　卒業制作 第5週　　卒業制作 第6週　　卒業制作 第7週　　卒業制作 第8週　　卒業制作 第9週　　卒業制作 第10週　　卒業制作 第11週　　卒業制作 第12週　　卒業制作 第13週　　卒業制作 第14週　　卒業制作 第15週　　卒業制作
成績評価	実習中の態度（20%）、習得度（調査等も含む）（20%）、研究成果等（60%）を基本に、総合的に判断する
教科書	卒制対象の作品等が記載されている書物。（正倉院紀要・美術院紀要）等
参考書　参考資料	卒制対象の作品等に類似しているのもが記載されている書物。
履修上の注意	作品を完成させること
予習・復習指導	予習は制作および道具の手入れ（刃物研ぎ等）1.5時間 復習は制作および道具の手入れ（刃物研ぎ等）1.5時間
関連科目	文化財の専門実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが履修済みであること
課題に対するフィードバックの方法	実習時間内で課題に対して常に質疑応答等を行う
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP414P

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	工芸実習基礎Ⅰ（建築デザイン）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目　工芸基礎系		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	山内　貴博	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	森重　幸子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	生川　慶一郎	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	細尾　直久	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	大田　精一	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
非常勤講師	中村　卓	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
非常勤講師	藤巻　佐有梨	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	設定条件を満たした適切な設計が行えること。設計手順を理解し、同種建築の分析を通して適切な建築計画を行い、自身の作品を正確な方法で表現できること。また、伝統建築特有の基礎的知識を構法も含め理解すること。
授業概要	基本的な手順に沿って一通りの建築設計プロセスを体験する。第1課題は、小規模建築（10mキューブ）の課題を通して基本的な設計方法を習得する。第2課題は、伝統建築の理解の一助として茶室・茶屋の描写を行う。第3課題は、小規模ギャラリーを設計する。敷地や先行事例の調査・分析を行い、コンセプトを立て、それを具体化する設計を行う。全体を通して建築作品としてまとめていくプロセスを習得する。 建築学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15 週/ 週1日・3コマ 第1週 ガイダンス、課題A： ＜10mキューブ＞：課題説明・課題分析 第2週 課題A： コンセプトワーク・模型制作・エスキース 第3週 課題A： 模型制作・エスキース 第4週 課題A： 図面作成（平面図・断面図・立面図）・エスキース 第5週 課題A： エスキース・成果品（プレゼンボード・完成模型）作成 第6週 課題A： 最終提出・優秀作品発表 第7週 課題B： ＜茶室のトレース＞ ： 課題説明・建築図面の表現と理解（1）/平面図 第8週 課題B： 建築図面の表現と理解（2）/立面図・事例見学 第9週 課題B： 建築図面の表現と理解（3）/断面図・最終提出 第10週 課題C：＜小規模ギャラリー＞ ： 課題説明・課題分析・敷地見学・事例調査 第11週 課題C： コンセプトワーク・図面作成（配置図）・事例見学 第12週 課題C： 図面作成（平面図・断面図）・模型制作・エスキース 第13週 課題C： 図面作成（立面図）・案の修正・エスキース 第14週 課題C： エスキース・成果品（プレゼンボード・完成模型）作成 第15週 課題C： 最終提出・優秀作品発表 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	各課題の成果品の総合点で成績評価を行う。 成果品提出遅延の場合は大幅に減点されるので注意すること。
教科書	自作プリント、「第3版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善
参考書　参考資料	「建築概論」、「建築計画Ⅰ」の教科書及び講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業（CAD 等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	設計課題と類似する実例の資料の調査ならびに実際の建築物を日頃より視察し、分析すること。 「工芸実習導入」で習得した図面・模型の作成方法、事例の読解方法を事前に確認しておくこと。 各課題共通で教科書のSection1,3を読み、かつ課題CについてはSection11も確認しておくこと。
関連科目	「工芸実習導入」、「工芸実習基礎Ⅱ」、「構成基礎演習」、「情報基礎演習」、「コンピュータデザイン演習」、「建築概論」、「建築計画Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとのエスキースや中間・最終成果品に対して講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAR-SP102P

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	工芸実習基礎Ⅱ（建築デザイン）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目　工芸基礎系		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 森重　幸子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	宮内　智久	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	江本　弘	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	細尾　直久	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	大庭　徹	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
特任准教授	河村　大助	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	小規模な空間および住宅の設計により、基本的な建築空間の設計能力を身に付けるとともに、設計提案を図面および模型を用いて表現する方法を習得する。また、小規模の伝統建築について、構法を含めた知識を習得する。
授業概要	第一課題として、小規模なカフェ空間の設計を通して、建築や空間のプロポーション、動線の計画、光や影の演出、景色の切り取りといった基本的な空間造形および演出方法について学び、プレゼンテーションを行う。中間に伝統建築の理解の一助として民家の描写を行う。第二課題として、趣味空間のある住まい方を提案しながらより豊かな住空間の創造を目指しエスキスを行い、基本設計図書を作成し、プレゼンテーションを行う。 建築学科のディプロマポリシー１、２、３、４に該当する。
授業計画 授業内容	全１５週／週2日・4コマ 第 1 週 ガイダンス、課題A・[ライブラリーカフェ]①：課題説明、敷地調査 第 2 週 ギャラリー②：事例分析、コンセプト立案 第 3 週 ギャラリー③：コンセプト・基本構想報告 第 4 週 ギャラリー④：平面・断面・エスキス模型報告 第 5 週 ギャラリー⑤：中間発表 第 6 週 ギャラリー⑥：案の再検討、成果品作成作業 第 7 週 ギャラリー⑦：成果品作成作業 第 8 週 ギャラリー⑧：作品発表、講評 課題B[趣味空間を活かした住宅]①：課題説明、敷地調査 第 9 週 住宅②：事例分析、コンセプト立案 第 10 週 住宅③：コンセプト・基本構想報告 第 11 週 住宅④：平面・断面・エスキス模型報告 第 12 週 住宅⑤：中間発表 第 13 週 住宅⑥：案の再検討、成果品作成作業 第 14 週 住宅⑦：成果品作成作業 第 15 週 住宅⑧：作品発表、講評
成績評価	授業態度20%、「基本型課設計・製図・展開型課題成果品」80%の内容から総合評価を行う。
教科書	「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善
参考書　参考資料	「建築概論」、「建築計画Ⅰ・Ⅱ」の教科書及び講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。ＶＤＴ作業（ＣＡＤ等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。 課題AおよびBに当たっては、教科書のsection3「室と場面」を読み、行為と必要な空間の寸法について確認しておくこと。
関連科目	1年次の「工芸実習導入」「工芸実習基礎　I」から発展した内容を取り扱う。 同時期に開講する「IT活用応用演習」は、設計提案の表現手法として本演習に活用できる内容を取り扱う。「建築計画Ⅱ」は特に住空間の計画上の考え方として本演習と関連がある。
課題に対するフィードバックの方法	各回ごとに進捗状況や構想内容についての質疑応答を行う。 提出作品に対して、グループごと、および全体での講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAR-SP203P

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築デザイン演習Ⅰ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目　建築デザイン系		
配当年次	2		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安田　光男	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	白鳥　洋子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	江本　弘	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	黒田　祐五	ＫＹＯＢＩ　建築学部
特任教授	小梶　吉隆	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	大田　精一	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
非常勤講師	山口　尚之	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
非常勤講師	大庭　徹	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
特任准教授	河村　大助	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	(建築デザイン) ①小・中規模建築物の設計手法を習得する。 ②基本コンセプト、ゾーニング、配置計画、動線計画、環境設計、構造設計、プランニングを体系的に進める事が出来るようになる。 (伝統建築) 製図器具の使い方や図面表現の基本知識を理解し、伝統建築特有の複雑な様式を表現できる製図技術力を習得するとともに、伝統建築設計図面を読解できる技術力を体得する。
授業概要	第1課題は共通課題、第2課題は建築デザイン・伝統建築の課題の選択制で行われる。 (建築デザイン) 小・中規模の集合住宅、教育施設、商業施設、コミュニティ施設 などの設計を行い、課題を通して、計画・構造・設備・デザイン・透視図など、建築設計の基礎的要素を体験的に学ぶことを目的とする。具体的な敷地に対してフィールドサーベイを行い、コンセプト(設計意図)を立て、それを具体化する設計を行う。各学生が分析・検討した成果品を個別にチェックを行い、 最適解とするための指導を行う。 建築学科のディプロマポリシーの２．３．４に係る。 (伝統建築) 伝統建築設計図が表現している意味を理解し、製図技術力を習得する為、代表的な寺院・神社建築の平面図・断面図・立面図（縮尺＝１/40 ～１/50 程度）を作図する。 建築学科のディプロマポリシーの２に係る。
授業計画 授業内容	全 15 週/ 週 90 分×4時限× 15 回 共通課題（第1課題） 第1週　ガイダンス、課題 A「集合住宅」: 課題説明・課題分析作業 第2週　課題・敷地・事例分析結果報告<グループ別> 第3週　平面計画・断面計画・エスキスチェック 第4週　基本構想発表<グループ別・全体> 第5週　構造計画・環境計画・エスキスチェック 第6週　プレゼンテーション作成・面積表・仕上表作成 第7週　作品提出・作品発表<全員公聴・評価> 建築デザイン課題（第2課題選択制） 第8週　課題 B「保育園」: 課題説明・課題分析作業 第9週　課題・敷地・事例分析結果報告<グループ別> 第10週　平面計画・断面計画・エスキスチェック 第11週　基本構想発表<グループ別・全体> 第12週　平面・断面・エスキスチェック 第13週　構造計画・環境計画・エスキスチェック 第14週　プレゼンテーション作成・面積表・仕上表作成 第15週　作品提出・作品発表<全員公聴・評価> 伝統建築課題（第2課題選択制） 第8週　課題説明・図面作成 第9週　見学会 第10週　模型作成 第11週　模型作成 第12週　模型作成 第13週　模型作成 第14週　模型作成 第15週　模型作成
成績評価	学習状況（20%）、提出作品（80%）の完成度によって総合的に評価する。

教科書	「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善 「集合住宅（建築設計テキスト)」　建築設計テキスト編集委員会編、彰国社 「保育施設（建築設計テキスト）」、山田あすか・藤田大輔、彰国社（第2課題で保育園を選択するもののみ）
参考書　参考資料	演習におけるレクチャー等で配布される資料及び下記の資料 「建築設計資料87　低層集合住宅2」　建築思潮研究所編、建築資料研究社 「ヒルサイドテラスで学ぶ建築設計製図」勝又英明、学芸出版社 「保育園・幼稚園・こども園の設計手法」仲 綾子その他、学芸出版社
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業(CAD等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理し常備すること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。 課題着手までに類似物件を数多く調査・見学しておくこと。
関連科目	「工芸実習導入」、「工芸実習基礎I」、「工芸実習基礎Ⅱ」、「建築計画Ⅱ」、「建築計画Ⅲ」、「建築デザイン演習Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	建築デザイン（第1課題・第2課題） 20名程度の学生に一人の教員指導によるスタジオ制とし、発表会において全ての学生の作品に対して講評を行う。さらに、すべての作品について教員・学生投票を行い、投票数を多く獲得した学生発表について講評を行う。 伝統建築（第2課題） 最終回にて成果品に対し総評を行う。
教員の実務経験	各種建築計画・設計実務経験を有する。
科目ナンバリング	AAR-SP204S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築デザイン演習Ⅱ		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目　建築デザイン系		
配当年次	3		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小梶　吉隆	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	安田　光男	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	髙田　光雄	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	井上　晋一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	山内　貴博	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	森重　幸子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	生川　慶一郎	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	竹脇　出	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	宮内　智久	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	白鳥　洋子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	新谷　謙一郎	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	江本　弘	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	黒田　祐五	ＫＹＯＢＩ　建築学部
特任教授	大上　直樹	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	大田　精一	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
非常勤講師	山田　滋也	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
非常勤講師	中村　卓	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
非常勤講師	藤巻　佐有梨	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
特任准教授	河村　大助	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	【前期】 オフィスデザインまたは「リノベーションデザイン」（いずれか選択）、と構造デザイン（ストラクチャから建築を考える）の課題を通して、より専門性の高い設計手法を習得し、建築設計の根幹となる知識を獲得することを到達目標とする。 【後期】 設計課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、構造・設備計画法等を習得すると共に、各種の構工法、製図法の知識と表現技術を習得することを到達目標とする。
授業概要	【前期】 前半はオフィスデザインまたは「リノベーションデザイン」課題（いずれか選択）、後半は建築構造課題に取り組むことで、建築設計に必要な基礎知識を習得し、後期課題に向けての準備を行う。オフィスデザイン課題では、小規模事務所ビルの設計と近年の新しい働き方に対応したオフィスインテリアに関する計画について、設備・内装材料等も含めた統合的なデザイン手法を、「リノベーションデザイン」課題では、築70年近くになる公的市街地住宅団地のリノベーション設計と店舗と住宅の異なる機能を共存させるまちづくりと連動した再生手法を身に付ける。また、建築構造課題では各種構造形式を習得するなど建築構造の理解を深める。 【後期】 メディアセンター、社会教育施設、商業施設、展示施設、コミュニティ施設、駅前広場などの地域複合施設の設計を行う。そのことを通じてＲＣ造などの建築の構工法、製図法の知識と表現技術を学ぶと共に、複合的な建築物の設計、リサーチによる課題の発見とコンセプトメイキング、プログラムの提案を習得する。（小グループに分け各グループを各教員が指導するスタジオ制で行う。） 建築学科のディプロマポリシー１、２、３、４に該当する。

授業計画 授業内容	【前期】全15週/週1日・2コマ 第 1 週 ガイダンス・「オフィスデザイン」または「リノベーションデザイン」課題説明 第 2 週 エスキース1：リサーチ 第 3 週 エスキース2：報告共有、設計開始 第 4 週 エスキース3：テーマ、コンセプト作成 第 5 週 エスキース4：平面計画・断面計画・構造計画 第 6 週 エスキース5：基本構想発表・提出 第 7 週 エスキース6：内装計画・環境計画 第 8 週 エスキース7：作図（仕上げ） 第 9 週 エスキース8：プレゼンテーション 第10週 作品発表・指摘内容の修正加筆（指摘作品） 第11週 建築構造課題説明、S造、RC造 第12週 構造デザイン エスキース 第13週 模型製作１ 第14週 模型製作２ 第15週 模型製作３ ※課題の詳細についてや日程については、各課題の講義初日に各教員が指示する。 【後期】全15週／週2日・4コマ 第 1 週 ガイダンス、課題A(1)＜メディアセンター＞課題説明・班分け・作業 第 2 週 課題A(2)：課題・機能・社会的課題分析発表 第 3 週 課題A(3)：サーベイプレゼン・提出（課題・敷地分析、類似施設見学報告） 第 4 週 課題A(4)：基本構想発表・提出（平面構成、空間構成、造形デザイン） 第 5 週 課題A(5)：スタディ模型等エスキス（平面構成、空間構成、造形デザイン） 第 6 週 課題A(6)：作図（仕上げ）、提出模型製作 第 7 週 課題A(7)：作図（仕上げ）、提出模型製作 第 8 週 課題A(8)：作品発表・指摘内容の修正加筆（指摘作品）・展示　自他評価 第 9 週 課題B(1)：＜選択制（駅前広場と付帯施設）＞課題説明 第10週 課題B(2)：課題・機能・社会的課題分析発表 第11週 課題B(3)：サーベイプレゼン・提出（課題・敷地分析、類似施設見学報告） 第12週 課題B(4)：基本構想発表・提出（平面構成、空間構成、造形デザイン） 第13週 課題B(5)：スタディ模型等エスキス（平面構成、空間構成、造形デザイン） 第14週 課題B(6)：作図（仕上げ）、提出模型製作 第15週 課題B(7)：作品発表・指摘内容の修正加筆（指摘作品） ※課題の詳細についてや日程については、各課題の講義初日に各教員が指示する。
成績評価	【前期】授業態度（20%）、前半・後半「成果品」（80%）から総合評価を行う。 【後期】授業態度（20%）、課題A・課題B「成果品」（80%）から総合評価を行う。
教科書	【前・後期】自作プリント、「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善
参考書　参考資料	「建築計画Ⅰ・II・III・IV」の講義の中で配布された資料等
履修上の注意	【前・後期】製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。 VDT 作業(CAD等)の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備するこ と。
予習・復習指導	【前期】一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 【後期】一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	【前・後期】「工芸実習導入」、「工芸実習基礎Ⅰ・Ⅱ」、「建築デザイン演習Ⅰ」、各種座学
課題に対するフィードバックの方法	各回ごとに進捗状況や構想内容についての質疑応答を行う。 作品発表時は全体での講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAR-SP305S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築デザイン演習Ⅲ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目　建築デザイン系		
配当年次	4		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上　晋一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	安田　光男	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	髙田　光雄	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	山内　貴博	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	森重　幸子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	生川　慶一郎	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	宮内　智久	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	白鳥　洋子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	新谷　謙一郎	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	江本　弘	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	黒田　祐五	ＫＹＯＢＩ　建築学部
特任教授	小梶　吉隆	ＫＹＯＢＩ　建築学部
特任教授	大上　直樹	ＫＹＯＢＩ　建築学部
特任准教授	河村　大助	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	「建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ」や各種座学で得た知識を基に、建築・地域・都市の課題を通じて、卒業研究や卒業設計としての具体的な成果へとつながる資料収集力・調査分析力・構想力・発想力・デザインカ・スケジュール管理力を身につける。
授業概要	ゼミ制として各指導教官の研究室に配属し、卒業制作へと繋げることを念頭に置き、建築・地域・都市に関するテーマを各自設定し、建築デザインコンペの参加も視野に入れ、論文／設計の制作を行う。 [建築・地域・都市的デザイン、伝統的建築群含む群建築・再開発・複合施設・外部空間構成・リノベーション・コンバージョン等] 建築学科のディプロマポリシー１、２、３、４に該当する
授業計画 授業内容	全15週／週２日 第 1 週 ガイダンス 第 2 週 ゼミ・チェック（制作方針について） 1 第 3 週 ゼミ・チェック（制作方針について） 2 第 4 週 ゼミ・チェック（敷地／資料調査） 1 第 5 週 ゼミ・チェック（敷地／資料調査） 2 第 6 週 ゼミ・チェック（制作コンセプト草案） 1 第 7 週 ゼミ・チェック（制作コンセプト草案） 2 第 8 週 ゼミ・チェック（中間報告草案） 第 9 週 中間報告（全体） 第10週 ゼミ・チェック（図面・模型） 1 第11週 ゼミ・チェック（図面・模型） 2 第12週 ゼミ・チェック（図面・模型） 3 第13週 ゼミ・チェック（図面・模型） 4 第14週 ゼミ・チェック（図面・模型） 5 第15週 最終プレゼンテーション・講評
成績評価	授業態度（出席等30%）、中間・最終「成果品」（評価等70%）から総合評価を行う。
教科書	自作プリント、「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善
参考書　参考資料	「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「伝統建築環境学」等の講義の中で配布された資料等 「建築設計資料集成」[地域・都市Ⅰ～プロジェクト編] 及び[地域・都市Ⅱ～データ編]日本建築学会編　丸善㈱
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。ＶＤＴ作業（ＣＡＤ等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	「工芸実習導入」、「工芸実習基礎Ⅰ・Ⅱ」、「建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ」、各種座学
課題に対するフィードバックの方法	それぞれの成果品を発表し、講評・質疑応答を行う
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAR-SP406S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	卒業制作（建築）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上　晋一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	安田　光男	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	髙田　光雄	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	山内　貴博	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	森重　幸子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	生川　慶一郎	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	宮内　智久	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	白鳥　洋子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	新谷　謙一郎	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	江本　弘	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	黒田　祐五	ＫＹＯＢＩ　建築学部
特任教授	小梶　吉隆	ＫＹＯＢＩ　建築学部
特任教授	大上　直樹	ＫＹＯＢＩ　建築学部
特任准教授	河村　大助	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	各自の設定したテーマに沿って、独自の調査、分析、研究などに基づき作品を構想し、設計／論文を制作する。 幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見いだす力を養う。
授業概要	学生各自がテーマを設定し、指導教官の指揮の下で卒業制作を行う。テーマの選定にあたっては、予め十分な討議を指導教官及び学生間でおこない、4年間の講義、実習、演習を通じて習得した建築に関する知識や技術に基づき、建築分野の卒業論文あるいは卒業設計に相応しい課題を選定する。 建築学科のディプロマポリシー１、２、３、４に該当する。
授業計画 授業内容	1. 卒業制作ガイダンス 2. 卒業テーマ、敷地／資料分析の検討 3. ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）1 4. ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）2 5. ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）3 6. 卒業制作中間発表 7. ゼミ・チェック（設計／論文草案）1 8. ゼミ・チェック（設計／論文草案）2 9. ゼミ・チェック（設計／論文草案）3 10. ゼミ・チェック（設計／論文草案）4 11. ゼミ・チェック（まとめ、プレゼンテーション）1 12. ゼミ・チェック（まとめ、プレゼンテーション）2 13. ゼミ・チェック（まとめ、最終プレゼンテーション） 14. 作品展示、提出 15. 講評会
成績評価	4年間の学びの集大成として、卒業制作（設計・論文）のテーマや価値を見極めた「研究・計画・制作・発表」ができているかを評価する。

教科書	自作プリント、「第３版コンパクト設計資料集成」日本建築学会編　丸善
参考書　参考資料	「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「伝統建築環境学」等の講義の中で配布された資料等 「建築設計資料集成」「日本建築学会梗概集・論文集」 「卒業制作作品集（各種）」「建築雑誌（各種）」
履修上の注意	成果物の提出締め切り日に必ず提出のこと。 「卒業制作中間発表会」・「講評会」には必ず出席すること。 製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。 ＶＤＴ作業（ＣＡＤ等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	「工芸実習導入」、「工芸実習基礎Ⅰ・Ⅱ」、「建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「伝統建築図（基礎）・（応用）・（発展）」、「伝統建築専門実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、各種座学
課題に対するフィードバックの方法	ゼミ・チェック時に担当教員より質疑応答・講評を行う。 「卒業制作中間発表会」及び「講評会」時に建築学科の教員により質疑応答・講評を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAR-SP410P

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	表現技術論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	各表現の特長、コンセプト、テクニックなどを理解し、自身の表現力の向上を目指す。
授業概要	表現技術の多様性を講述する。 芸術学部ディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 オムニバス形式 第１回　中井川正道　　全体ガイダンス 第２回　岡　　達也　　ポスター表現　1 第３回　岡　　達也　　ポスター表現　2 第４回　渡邊　俊博　　立体の表現 第５回　中山　智博　　３Ｄの表現　1 第６回　中山　智博　　３Ｄの表現　2 第７回　松本　浩作　　照明の表現　1 第８回　松本　浩作　　照明の表現　2 第９回　松本　浩作　　照明の表現　3 第10回　安藤　眞吾　　オノマトペ　1 第11回　安藤　眞吾　　オノマトペ　2 第12回　中井川　正道　美の表現　1 第13回　中井川　正道　美の表現　2 第14回　東俊一郎　街の色彩の表現 第15回　中井川正道　　まとめとレポート ＊講師の都合により内容の変更および講師の入れ替えがあります
成績評価	履修態度70%、各小レポート30%
教科書	配布資料、映像など
参考書　参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	講師の都合により内容、講師の変更、順番などの変更がある。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 想定の範囲内において各講義の内容について調べる。 講義後はわからなかったとことを中心に調べ講義の内容を十分に理解する。
関連科目	科学と芸術　伝統と学び　工芸概論　デザイン概論　しごと論Ⅰ、Ⅱ　発想と表現
課題に対するフィードバックの方法	第１５回に総括する
教員の実務経験	有
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-GE221L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	京都学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷　裕久	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	「京都市行政」を通じて日本文化の中心である京都の伝統と文化を学ぶ。また、京都の大学の学生として地域発展に結びつく連携の重要性について学ぶ。
授業概要	京都は歴史に育まれた多彩な文化が生活の中に息づいている。国内外から年間５千万人を超える観光客が訪れる、京都の奥深い魅力に触れるための、具体的な体験メニューや情報収集法などについて学ぶ。本学は、京都市と「包括連携協定」を結んでおり、地域連携の意義について理解を深める。授業はオムニバス方式であり、京都市の多岐にわたる分野（行政の総合企画局、産業観光局、都市計画局、文化市民局、保健福祉局、消防局、東山区役所、美術館等）の職員がゲストスピーカーとして登壇し、京都について総合的な理解を深める。 本学ディプロマポリシー1、2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回(オムニバス方式) ※第1回～14回については、京都市の担当部門の職員がゲストスピーカーとして登壇 第1回　留学生施策の推進／総合企画局総合政策室大学政策担当 第2回　「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進／総合企画局総合政策室大学政策担当 第3回　時を超え光り輝く京都の景観づくり／都市計画局都市景観部景観政策課 第4回　これからの京都観光～住んでよし、訪れてよし、働いてよし　歴史や文化を希望にかえるまち　京都～／産業観光局観光MICE推進室 第5回　博物館で学んでみませんか？／教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進担当 第6回　都心再生のまちづくり／都市計画局まち再生・創造推進室 第7回　京都市の文化財保護について／文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 第8回　わたしたちの伝統産業／産業観光局クリエイティブ産業振興室 第9回　京都駅東部エリア活性化将来構想／総合企画局プロジェクト推進室プロジェクト推進第三担当 第10回　美術館とは何か／文化市民局文化芸術都市推進室美術館 第11回　みやこユニバーサルデザインをみんなで考え、進めよう！／保健福祉局障害保健福祉推進室 第12回　家族を守る、地域を守る消防団／消防局消防団・自主防災推進室 第13回　東山区のまちづくり 山紫水明の都　結び合う心 東山の未来／東山区役所地域力推進室 第14回　SDGs（持続可能な開発目標）とは？／総合企画局総合政策室ＳＤＧｓ・市民協働推進担当 第15回　まとめ「京都美術工芸大学は京都でなにをするのか？」／副学長　新谷裕久 ※テーマ、日程等は都合により変更となる場合があります。
成績評価	受講態度（10%）、毎回講義中に実施する小レポート（90%）をもって評価する。 受講態度は、遅刻、レポートの提出遅れなどが該当する（減点方式）。 原則、レポート提出のない場合は欠席とみなす。5回以上欠席の場合は不可とする。公欠による欠席の場合は、追レポートにより評価を行う。
教科書	講義ごとに事前に資料を配布する（クラスルームに添付）。
参考書　参考資料	京都市ホームページ（www.city.kyoto.lg.jp）
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話を聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努める。 クラスルームで資料の配布、出席管理、小レポートの提出等を行うので、パソコンを持参すること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 予習は、各テーマごとの「京都市ホームページ」等をチェックしておくこと。また、事前に講義資料を配布するので目を通し、質問等があれば整理しておくこと。 復習は、各テーマごとの講義ノートと配布された資料を整理し、理解しておくこと。
関連科目	京都学演習Ⅰ、社会活動Ⅰ、社会活動Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-TR102L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	京都学演習Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生川　慶一郎	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	髙田　光雄	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	京都におけるまち・建築・空間を直接往訪し、現在に受け継がれてきた日本の伝統・文化、美しい町並み・その成り立ち、京都に育まれてきた豊かなコミュニティ等について自ら体験とすることで、「京都らしさ」とは何か、「京都において建築を学ぶ意義」を問う機会とする。また、グループフィールドワークやその結果の発表機会を設けることで、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養成する。
授業概要	京都に関連がある特色のある建造物やまちなみ、景観、庭園などを選定し、その歴史(由来、建設経緯や設計者など)や特性（意匠的・構造的特徴など）を調べる。その結果を、Google My Maps を活用して各自が選定したコンテンツに対応するアイコン、画像（スケッチあるいは写真）、文章やデザイン、レイアウトなどに工夫を凝らし、建築に関連するテーマを定めてストーリー性のあるパンフレットを作成する。本科目は建築学科のディプロマポリシー3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回　オリエンテーション、課題説明 第 2 回　フィールドワーク① 第 3 回　フィールドワーク② 第 4 回　フィールドワーク③ 第 5 回　フィールドワーク④ 第 6 回　フィールドワーク⑤ 第 7 回　フィールドワーク⑥ 第 8 回　エスキスチェック① 第 9 回　追加調査① 第10 回　追加調査② 第11 回　エスキスチェック② 第12 回　資料作成① 第13 回　資料作成② 第14 回　プレゼンテーション 第15 回　成果物の評価フィールドワーク ※学習への理解、到達状況に加えて、コロナ等の感染状況応じて、フィールドワークの実施可否など適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	提出シート、プレゼンテーション
教科書	なし（配布資料あり、パワーポイントなどを使用）
参考書　参考資料	モダン建築の京都100、建築MAP京都、京都の近代化遺産、京都近代の記録など
履修上の注意	本講義中に行うフィールドワークには必ず出席し、ワークショップに臨むこと。 フィールドワーク時には、大学生としての自覚を持ち、事故のないよう注意すること。 校外学習を行う際は、規律のある行動をとること。
予習・復習指導	フィールドワーク、シートの作成などに当たっては、グループの連携を計り、プレゼンテーションの完成度を高めること。
関連科目	京都学、伝統建築論Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	最終回に成果品、プレゼンテーションに対し講評を行う。
教員の実務経験	調査研究実務経験豊富
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-TR208S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	英会話Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	英語の基礎を知識としてではなく言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数（読んでわかり、聞いてわかり、自分で使える単語の数）と最低限の規則（文法）が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。 また、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICに挑戦できる実力がつくことをめざす。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　科目説明　授業計画紹介　Orientation, Self-Introduction in English 第2週　Unit 1: Listening & Reading Practice 1, 提出物 1 第3週　Unit 2: Listening & Reading Practice 2, 提出物 2 第4週　Unit 3: Listening & Reading Practice 3, 提出物 3 第5週　Unit 4 + Review (1) 範囲Unit 1-3 第6週　Unit 5: Listening & Reading Practice 5, 提出物 4 第7週　Unit 6: Listening & Reading Practice 6, 提出物 5 第8週　Unit 7: Listening & Reading Practice 7, 提出物 6 第9週　Unit 8 + Review (2) 範囲Unit 4-7 第10週 Unit 9: Listening & Reading Practice 9, 提出物 7 第11週 Unit 10: Listening & Reading Practice 10, 提出物 8 第12週 Unit 11: Listening & Reading Practice 11, 提出物 9 第13週 Unit 12: Listening & Reading Practice 12, 提出物 10 第14週 Review Test (3) 範囲Unit 8-12 + Review (1)(2)未受験者の追試 第15週 Speaking Test + Review (1)(2)(3)未受験者の追試 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	評価ポイント：　定期試験 30%, Review Test 3回 30%, Speaking Test 10%, 授業中の提出物・小テストと積極的な授業への参加 30%
教科書	Welcome to the TOEIC L&R Test（新訂版 TOEIC L&R テストへようこそ） 北原良夫編著（株）朝日出版社 ISBN 978-4-255-15649-1
参考書　参考資料	英和辞典、和英辞典
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、リスニングが苦手な人は何度も聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	美術工芸英語、英会話II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。小テストは間違った箇所を確認できるように、必ず返却する。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO102S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	美術工芸英語		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	前期の英語学習に基づき、語彙数（読んでわかり、聞いてわかり、自分で使える単語の数）をさらに増やし、最低限の規則（文法）をマスターすることを目標とする。 また、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICに挑戦できる実力がつくことをめざす。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　Unit 13 Listening and Reading, 提出物 1 第2週　Unit 14 Listening and Reading, 提出物 2 第3週　Unit 15 Listening and Reading, 提出物 3 第4週　Unit 16 Listening and Reading, Review (1)範囲Unit 13, 14, 15 第5週　Unit 17 Listening and Reading, 提出物 4 第6週　Unit 18 Listening and Reading, 提出物 5 第7週　Unit 19 Listening and Reading, Review (2)範囲Unit 16, 17, 18 第8週　Unit 20 Listening and Reading, 提出物 6 第9週　Unit 21 Listening and Reading, 提出物 7 第10週 Unit 22 Listening and Reading, Review (3)範囲Unit 19, 20, 21 第11週 Unit 23 Listening and Reading, 提出物 8 第12週 Unit 24 Listening and Reading, 提出物 9 第13週 Review (4) 範囲Unit 22, 23, 24 + Review Test (1)(2)(3)未受験者の追試 第14週 Speaking Test 第15週 実力確認 + Speaking Test未受験者, Review Test (1)(2)(3(4)未受験者の追試 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	評価ポイント：　実力確認 30%, 小テスト 40%, Speaking Test 10%, 授業中の提出物と積極的な授業への参加 20%
教科書	前期に使用した教科書を続けて使用する Forerunner to Power-Up English　総合英語パワーアップ ― リスニングからリーディング<入門編> （株）南雲堂　ISBN 978-4-523-17624-4
参考書　参考資料	英和辞典　和英辞典
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声をストリーミング配信するので、リスニングが苦手な人は何度も聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	英会話I　英会話II　英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。小テストは間違った箇所を確認できるように、必ず返却する。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO103S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	英会話Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	どの専門分野でも必要となるコミュニケーションのための語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。就職、進学に備え、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICで５００点以上を獲得できる実力を目指す。
授業概要	どの専門分野でも必要なコミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手を理解し、自分の意思を伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第１週 授業計画紹介 Listening, Reading, Speaking 1, 提出物 1 第２週 Listening, Reading, Speaking 2, 提出物 2 第３週 Listening, Reading, Speaking 3, 提出物 3 第４週 Listening, Reading, Speaking 4, 提出物 4 第５週 Listening, Reading, Speaking 5 + Review Test 1 (1-4) 第６週 Listening, Reading, Speaking 6, 提出物 5 第７週 Listening, Reading, Speaking 7, 提出物 6 第８週 Listening, Reading, Speaking 8, 提出物 7 第９週 Listening, Reading, Speaking 9 + Review Test 2 (5-8) 第10週 Listening, Reading, Speaking 10, 提出物 8 第11週 Listening, Reading, Speaking 11, 提出物 9 第12週 Listening, Reading, Speaking 12, 提出物 10 第13週 Review Test 3 (Unit 9-12) + Review Test (1)(2)未受験者追試 第14週 Speaking Test + Review Test (1) (2) (3) 未受験者追試 第15週 実力確認 + Speaking Test, Review Test (1) (2) (3) 未受験者追試 (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	評価ポイント：　定期試験(実力確認) 30%, Review Test 3回 30%, Speaking Test 10%, 授業中の提出物・小テストと積極的な授業への参加 30%
教科書	授業中にプリント資料を配布します。
参考書　参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	このクラスは中級ですが、難易度は初級と変わりません。 1年次後期「美術工芸英語」で「良」を取得した学生で、英語の基礎がためをしたい人を主に対象とします。 他クラスとの成績調整のため、このクラスの最終週テストに加えて定期試験を受けてもらいます。 中級は前期後期あわせて３クラス開講されますが、履修者数に大きな偏りが生じた場合、履修曜日変更をお願いすることがあります。
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声が配信されるので、長いリスニング問題は聞き取れるまで何度も繰り返し聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	英会話 I、美術工芸英語、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。毎回の提出物は間違った箇所を確認できるように、必ずfeedbackする。随時教室でまたはメールで質問を受けつける。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO204S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	しごと論Ⅰ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	・「しごと」の多様性とその意義を理解する。 ・自身の将来の「しごと」について思考する。
授業概要	様々な仕事での貴重な経験談を通して、人の心のありようを知ることや、知恵、努力の様を学ぶ。 本学のディプロマポリシー１、２に該当する。
授業計画 授業内容	オムニバス形式／全15回 第１回　新谷　裕久（教授/大学企画・広報） 第２回　高田　光雄（教授/建築家） 第３回　川尻　潤　（特任教授/陶芸家） 第４回　堀木　エリ子（客員教授/和紙デザイナー） 第５回　前田　尚武（京セラ美術館企画推進ディレクター） 第６回　塚本　カナエ（非常勤講師/プロダクトデザイナー） 第７回　宮本　貞治（特任教授/木工家） 第８回　簇　邦充　（数寄屋大工） 第９回　コシノ・ジュンコ（客員教授/デザイナー） 第10回　阿部　祐二（客員教授/俳優/リポーター） 第11回　国広　ジョージ（客員教授/建築家） 第12回　中井川　正道（教授/環境デザイン） 第13回　大西　英玄　（清水寺成就院住職） 第14回　久保田　康夫（フォトグラファー） 第15回　三木　表悦　（特任准教授/漆芸家） ※順番は前後する場合があります ※講師の都合により、他の講師と入れ替える場合があります（上記は昨年の講師）
成績評価	毎回の小レポート80%、受講態度20%によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書　参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話を聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 想定の範囲内において各講師の仕事内容について調べておく。 講義後は分からなかった内容や用語などを調べて講義の内容を把握する。
関連科目	3年次には引き続き「しごと論Ⅱ」を受講することが望ましい。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-CA101L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	ﾒﾃﾞｨｱﾘﾃﾗｼｰ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 山田　幸秀	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	・大学の研究や日常生活において情報を適切に収集、活用する意識と能力を高める。 ・積極的にニュースメディアに接する習慣を身につけ、社会への適応能力を養う。 ・特に海外ニュースについては、英字メディアや英文サイトから一次情報にアクセスする技術を習得する。 ・新聞、テレビ、ラジオなどのメディア関係者から直接、話を聞くことで、ニュースや情報に対する関心を深めるとともに、発信する側の思いや取り組みを知る。
授業概要	テレビや新聞などの既存メディアに加え、わたしたちはインターネットを通じてさまざまな情報を得ている。ネット情報は真偽や質が問題視されることが多いが、一方で、長年に渡って情報を独占してきた既存メディアの誤報や偏向報道、「切り取り」による印象操作などの弊害を監視する機能を果たしているという側面も否定できない。大学の研究や日常生活にこれら新旧メディアをどう使い分ければいいかを考え、社会生活においてメディアを活用する技術を身につけるため、メディアの特性を知るとともに、一線で活躍するメディア関係者らの話を聞く。 また、“USA TODAY”“Washington Post”などの英字紙、“Rotten Tomatoes”“IMBd”などの英字映画情報サイトからタイムリーなトピックをピックアップし、日本では報道されない情報や、海外の視点に触れる。 さらに、日々のニュースの主役であり、普段はメディアの取材対象となる警察関係者、外交官、政治家、インテリジェンス関係者などからメディアのフィルターを通さずに直接話を聞く機会を設ける。 本科目は、本学のディプロマポリシー2、3に該当する
授業計画 授業内容	全15回 第１回　ガイダンス：メディアリテラシーとは ― メディア情報を大学生活にどう生かすか 第２回　メディアの種類と特性 ― 新聞、テレビ、ラジオ、通信社、雑誌、フリーペーパー、インターネット 第３回　メディアを巡る諸問題(1) ― 誤報、客観報道と情報操作 第４回　メディアを巡る諸問題(2) ― 実名報道 第５回　英字メディアのリテラシー(1) 第６回　英字メディアのリテラシー(2) 第７回　テレビ局の仕事 第８回　新聞社の仕事 第９回　FMラジオ局のさまざまな取り組み ― 音楽からアートまで 第10回　ソーシャルメディアの功罪 第11回　ニュースの主役(1) ― 警察 第12回　ニュースの主役(2) ― 外交官 第13回　ニュースの主役(3) ― 政治家 第14回　動画広告の世界（「カンヌライオンズ国際クリエイティビティフェスティバル」歴代入賞作品の紹介） 第15回　情報収集・分析のプロたち ― インテリジェンスとは ※予定は目安です。変更になる場合があります。
成績評価	・毎回の小レポートを点数化し、出席状況を加味した上で評価する。
教科書	授業開始に先立ち、オリジナルテキストを配付する。
参考書　参考資料	「実名と報道」（日本新聞協会 編集委員会）　※同協会のウェブサイトから無料でダウンロードできます。
履修上の注意	・受け身の姿勢ではなく、自分のアタマで考えながら受講すること。 ・ゲストには積極的に質問を。
教員の実務経験	産経新聞社で情報誌の編集、米全国紙"USA TODAY"のダイジェスト版の翻訳、新聞の取材、インタビュー、紙面連載などに携わる。その後、在大阪カンボジア王国名誉領事館館長としてビザの発給業務のほか、カンボジアー日本の二国間交流や米国、台湾など各国在外公館との国際交流に従事。 情報誌では特集、エッセー、旅行などの連載を担当したほか「湾岸戦争特集」を発行。クウェートを解放した多国籍軍に130億ドルもの資金を提供しながら、クウェート政府が米国の主要新聞に出した国際社会への感謝広告に日本の国名がなかった問題を取り上げた。また、新聞のインタビューでは政治家、外交官、大学教授ら数多くの人物を取材し、紙面で紹介した。 また、約20年にわたり関西のメディア、警察、外国公館、政治家、インテリジェンス関係者らが集まる私的な交流会を主宰。メンバーには本講座のゲスト講師として協力いただいている。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA106L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	伝統工芸概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	芸術学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村　嘉章	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	・工芸業界の裾野の広さを理解する。 ・各工芸について基本的な知識を身につける。
授業概要	京都の伝統工芸業界の実務者による講演形式の授業を実施することで、工芸業界の裾野の広さを学ぶ。 本学のディプロマポリシー１、２、３に該当する。
授業計画 授業内容	オムニバス／全１５回 第１回　玉村　嘉章　　概論 第２回　藤井　收　　漆芸 第３回　小田　珠生　　表具 第４回　小田　珠生　　表装 第５回　八田　誠治　　友禅・西陣 第６回　須藤　拓　　鍛金 第７回　須藤　拓　　鋳金・彫金 第８回　小島　登　　桐箱 第９回　井上　楊彩　　人形 第10回　福永　荘三　　念珠 第11回　龍村　周　　錦織作家 第12回　猪飼　祐一　　京焼 第13回　石田　正一　　竹工芸 第14回　渡邉　晶　　刃物 第15回　中村　佳之　　京こま ※上記リストは昨年度のものであり、今年度は講師の変更や順番が前後する場合があります。 　詳細については第1回目の概論において説明します。
成績評価	毎回実施する小レポートにより評価する。
教科書	各講義の担当教員が必要に応じて資料を配布する。
参考書　参考資料	『工芸の見かた・感じかた』(東京国立近代美術館工芸課：編)淡交社 『明日への伝統工芸』(浅見 薫著)㈶京都伝統工芸産業支援センター [その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]
予習・復習指導	(内容)各講義の担当教員の略歴や特徴、用語や作品など、重要と感じることについて調べること。 (時間)講義1コマに対して４．５時間の事前学習をすること。
関連科目	「工芸概論」と併せて工芸の知識を深める。
課題に対するフィードバックの方法	レポートに含まれる質疑応答については、各講義の担当教員からの情報をまとめて総括の時間に行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-BA103L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	日本住居史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上　年和	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	建築史研究、歴史的建造物の調査研究、設計・施工に必要となる基本的な知識を習得する。
授業概要	日本の伝統的な住居について、変遷過程や形態、特徴を史料、遺構等に基づき解説する。 建築学科のディプロマポリシーの１、２に係る。
授業計画 授業内容	全15 回 第１回 オリエンテーション　史跡と古墳 第２回 原始的な住居と集落 第３回 都城と宮殿 第４回 寝殿造 第５回 書院造 第６回 城郭 第７回 武家屋敷 第８回 都市と村落 第９回 民家 第10回 町屋（町家） 第11回 劇場 第12回 茶室と数寄屋 第13回 近代和風建築 第14回 洋風住宅 第15回 歴史的な町並み
成績評価	レポートおよび定期試験結果により評価を行う。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書　参考資料	日本建築学会『日本建築史図集』彰国社、小沢朝江・水沼淑子『日本住居史』吉川弘文館
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
関連科目	日本建築史、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	期末試験を実施し、試験後に解答を公開する。
教員の実務経験	文化財建造物修復、歴史的建造物設計監理
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-BA105L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	日本建築史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	設計・施工、研究に必要な伝統建築に関する基礎的な知識・歴史観を習得する。
授業概要	社寺建築を中心に様式や形式の変遷、その建築的特徴について遺構、史料に基づき解説する。 また歴史的建造物の保存修復について、その理念や手法を説明する。 本科目は建築学科のディプロマポリシーの１、２に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回 導入～建築史学の様式史観と文化財保存修理の歴史 第２回 伝統建築の基礎用語と形式概念 第３回 神社建築（１）古代の社殿～伊勢・出雲・住吉 第４回 神社建築（２）中世の社殿 第５回 寺院建築（１）仏教建築の伝来～飛鳥時代の建築 第６回 寺院建築（２）和様の誕生～奈良時代の建築 第７回 寺院建築（３）国風化の進展～平安時代の建築 第８回 寺院建築（４）中世の新しい様式と構造形式の変化 第９回 寺院建築（５）桃山時代の優美な建築 第10回 寺院建築（６）江戸時代の多様な建築 第11回 大工道具と継手仕口の発展史・木材からみた建築史 第12回 造形・細部意匠からみた建築史～木割・軒反り・絵様・彫刻 第13回 近代日本の建築（１）明治時代の建築 第14回 近代日本の建築（２）震災以後の建築と近代和風 第15回 歴史的建造物の保存と修理技術
成績評価	レポートおよび定期試結果により評価を行う。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書　参考資料	日本建築学会『日本建築史図集』彰国社、近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版、太田博太郎『日本建築史序説』彰国社
履修上の注意	配布資料、 講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	講義１コマに対し、4.5 時間の予習復習をすること。 （具体的な内容） 配布資料、講義ノートより予習復習を行うこと。
関連科目	日本住居史、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	期末試験を実施し、試験後に解説する。
教員の実務経験	有
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-BA210L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築計画Ⅰ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	建築を具体的な形にしていく計画・設計手法とそのために必要となる基礎的知識を学び、その知識を活用できるようになること。
授業概要	建築に携わる者にとって基礎的で必須の教科。建築そのものを理解するための基礎知識や建築計画・設計に要求される知識・技術、計画・設計手法を体系的に学習する。 前半において計画の基礎となる人間の知覚と行動、建築空間の性能、形態、後半において設計の基礎となる建築の計画手法、空間構成の技法、外部空間の構成手法、計画の表現技法などを学習する。建築設計関連の演習と相関した授業計画としている。 建築学科のディプロマポリシーの１．２．３．４に係る。
授業計画 授業内容	全15 回 第 1回 ガイダンス、建築計画の目的、意義など 第 2回 人間の知覚と行動１：（形態知覚の特性、心理環境と形態） 第 3回 人間の知覚と行動２：（人間の行動と形態） 第 4回 寸法と規模の計画１：（寸法の計画） 第 5回 寸法と規模の計画２：（単位空間の寸法） 第 6回 空間の性能１：（空間の機能、安全性） 第 7回 空間の性能２：（耐久性、経済性、省エネルギー） 第 8回 空間の形態：（地理的環境と形態、機能と形態） 第 9回 計画の技法１：（設計プロセス） 第10回 計画の技法２：（空間構成のエレメント） 第11回 空間構成の技法 第12回 造形技法 第13回 外部空間の構成と配置計画１：（外部空間のスケール、歩行空間の形態） 第14回 外部空間の構成と配置計画２：（外部空間の構成、建物の配置形態） 第15回 表現技法 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	「小レポート(小テスト)＋期末試験(期末レポート)」により成績評価を行う。 授業態度（出席も含め30%）も考慮し、最終成績とする。
教科書	「現代建築学　新訂　建築計画1」　岡田光正著他　鹿島出版会
参考書　参考資料	第3版「コンパクト建築設計資料集成」 日本建築学会　丸善株式会社
履修上の注意	基礎教養として社会の仕組みをある程度理解し、建築に関わる現代的問題をニュース等から情報を得て、自らの課題として認識しようとすること。また、人間の行動実態や豊かな生活環境のあり方等に興味をもち、授業で学んだこと・考えたことと日々の生活との関わりを知ろうとする心掛け・行動が重要である。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 教科書や配布資料を読み、建築計画に関わる考え方を感覚的に理解すること。また具体的な単語や数値を覚えること。
関連科目	「建築設計導入実習」、「建築設計基礎演習Ⅰ、Ⅱ」、「建築概論」、「建築計画Ⅱ、Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	小レポート（小テスト）のフィードバックを次回以降の講義内もしくはクラスルームで行う予定である。
教員の実務経験	10年以上の設計実務経験を有する。
教員の実務経験有無	有り
科目ナンバリング	COM-BA114L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	芸術学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 高田　光雄	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	建築学の深い成り立ちと多様な広がりを理解し、建築に対する幅広い視野を身につける。同時に、受け身で知識を習得するのではなく、自ら問いを発して、自ら考え、自ら答えるという研究の基本を身につけ、大学での学び方を習得する。
授業概要	建築学は「建築とは何か」という問いに始まり、「建築とは何か」という問いに終わる。 そして、その問いは無数の問いに細分化される。本講義では、建築学をめぐる多数の問いを投げかけ、具体的な建築作品や研究事例を用いた各問いの考察を通じて、建築の魅力と建築学の醍醐味に触れ、各自が「建築とは何か」という問いに向き合う構えに接近する。建築学科のディプロマポリシー１、２、３、４に該当する。
授業計画 授業内容	全15回　14の建築への問い 第１回　講義概要・建築とは何かという問い 第２回　建築を京都で学ぶ意味は何か 第３回　建築や都市の歴史を学ぶ楽しみとは何か 第４回　修復の世界とは何か 第５回　路地から見る京都とは何か 第6回　環境共生住宅とは何か 第7回　建築企画とは何か 第8回　まちづくりとは何か 第9回　建築の「しぶさ」とは何か 第10回　ジョン・ラスキンとは誰か 第11回　建築の文化的価値とは何か 第12回　アジアの伝統住居とは何か 第13回　伝統建築はいかにして設計されたのか 第14回　建築の寸法はどのように決めるのか 第15回　講義まとめ
成績評価	「小レポート(小テスト)＋期末試験(期末レポート)」により成績評価を行う。 授業態度（出席も含め30%）も考慮し、最終成績とする。
教科書	なし
参考書　参考資料	講義において紹介する。
予習・復習指導	各講義内容を自分に対する問いとして整理するとともに、それに答える試みを重ねること。 １コマに対し、4.5時間の復習をすること
関連科目	建築学科全科目
課題に対するフィードバックの方法	講義の中で質疑・応答などを行う。
教員の実務経験	32年間の各種建築計画・設計実務経験を有する。また、大学の専任教員として11年間の実務経験を有する。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-BA102L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	構成基礎演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 江本　弘	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
特任教授	小梶　吉隆	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	・造形物の様々な特性を理解する。 ・平面・立体構成の感覚、空間把握能力を養う。 ・自身の考えを描写を通じて具現化し、他者に伝える能力を習得する。
授業概要	本科目では造形の基礎演習として、形を生み出す上で最も重要な線の描き方と構成の方法を、様々な事物を描写する中で体得し、かつ描き出したものから発見的に考察していく。まず自身の身近なものを描くことから始め、次に平面での構成の練習、そして平面から立体空間構成への展開、最後に総合的な課題として、家具（椅子）による立体空間を構成しその描写を行う。 建築学科のディプロマポリシーの１，２に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回　　オリエンテーション：授業の目標や留意点等の説明 作図課題１ 　　起こし絵課題１：出題（課題説明、実測説明） 第2回　　起こし絵課題２：実測図の作成 第3回　　起こし絵課題３：起こし絵の作成 第4回　　起こし絵課題４：作品発表、 平面構成課題１：構成への発展、点と線 第5回　　作図課題２：インテリアスケッチ 第6回　　平面構成課題２：平面構成作画 第7回　　立体課題①-１：ミースパチンコ 第8回　　立体課題①-２：ミースパチンコ 第9回　　立体課題②-１：小篠邸を埋めこむ 第10回　　立体課題②-２：小篠邸を埋めこむ 第11回　　総合課題１：椅子のデザイン 第12回　　総合課題２：椅子のデザイン 第13回　　総合課題３：椅子のデザイン 第14回　　総合課題４：椅子のデザイン 第15回　　合評、総括
成績評価	受講態度（20%）、各課題提出物の評価（80%）
教科書	特になし
参考書　参考資料	必要に応じて参考資料を配布する。 その他の参考書として、 小沢剛、塚本由晴著『線の演習 建築学生のための美術入門』 小嶋一浩、伊藤香織、他編著『空間練習帳』 フランシス・D・K・チン著、太田邦夫訳『建築ドローイングの技法』
履修上の注意	毎回の授業に積極的に参加すること。また、提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	各回1.5時間の予習復習をすること。 授業内に終了しなかった作品の完成、ならびにより良い作品作りに向けて作業を行うこと。
関連科目	「建築設計導入実習」「建築設計基礎演習Ｉ」「デザイン作図演習」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-BA104S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築CAD演習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	黒田　祐五	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	中村　卓	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	・グラフィックデザインの意義を理解するとともに、その実践のためにAdobe PhotoshopおよびIllustratorの基礎的な操作法を習得する。 ・2次元CAD（Computer Aided Design）の意義を理解するとともに、その実践のためにAutodesk AutoCADの基礎的な操作法を習得する。 ・建築設計作品のデジタル・プレゼンテーションの意義を理解するとともに、その実践のために上記のソフトウェアを活用する。
授業概要	本演習では、まずデザインにおけるコンピューターソフトウェアの身近な活用事例を知り、その意義を理解しながら、代表的なグラフィックデザインソフトウェアであるAdobe Photoshop、Illustratorを使用した図形描画、レイアウト、画像処理の基礎を学ぶ。 次に、建築の実務で広く活用されている代表的なCAD（Computer Aided Design）ソフトウェアであるAutodesk AutoCADの2次元機能の基礎的な操作方法を習得する。 最後に、これらのソフトウェアを組み合わせて、建築設計作品の総合的なプレゼンテーション能力の向上を目指す。 本科目は建築学科ディプロマポリシー4に該当する。
授業計画 授業内容	全30コマ（週1回・2コマ×15回） 第01回　ガイダンス、コンピューターを用いたデザインの基本概念 第02回　Illustrator①（基本操作、画像のトレース【課題1】） 第03回　Illustrator②（フォントの基礎、デザインコンセプトの構築） 第04回　Illustrator③（ロゴマークのデザイン【課題2】） 第05回　Illustrator④（課題2の成果品の講評） 第06回　Photoshop①（基本操作、写真の加工） 第07回　Photoshop②（写真の合成【課題3】） 第08回　AutoCAD①（基本図形の描画） 第09回　AutoCAD②（建築図面の描画） 第10回　AutoCAD③（モデル空間とペーパー空間、ペン設定、印刷） 第11回　AutoCAD④（異尺度図面の印刷【課題4】） 第12回　総合課題① 第13回　総合課題② 第14回　総合課題③ 第15回　総合課題④（成果品のプレゼンテーション、講評） ※授業の進捗状況、理解度に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	以下を総合して評価する。 ・学習状況（30%　受講姿勢を含む） ・課題成果（70%　全課題の成果品の提出を必須とする）
教科書	「Illustrator & Photoshop & InDesign これ1冊で基本が身につくデザイン教科書」阿部信行著、技術評論社
参考書　参考資料	・「デザインの学校 これからはじめる AutoCADの本［AutoCAD/AutoCAD LT 2020/2019/2018対応版］」稲葉幸行著、技術評論社, 2019 ・「Autodesk AutoCAD 2023公式トレーニングガイド」井上竜夫著、日経BP, 2022 ・その他、適宜資料を配付する。
履修上の注意	初学者は覚えるべきことが多いため、必ずノートやメモ帳を持参してメモ取る。 PCを用いた作業が中心となるため、各種IDやパスワードの管理、作業データのこまめな保存やバックアップに注意を払う。 授業で配布された資料や、各自で収集した資料等を整理・ファイリングして毎回授業に持参する。 課題に対する成果物の提出期限を厳守する。 授業で扱うAutoCADについては、Windows版を前提とした説明を行うので、履修に当たってはWindows版のAutoCADが使用できる環境を各自で整える。（原則としてMac版のAutoCADについてはサポートを行わない。）
予習・復習指導	コンピューターソフトウェアの操作法の習得は、特に基礎段階では積み上げの性質が強く、つまずきを放置するとその先の学習がままならない。そのため、常に十分な予習復習により、各回の演習内容を確実に習得すること。 演習で扱う題材に関連するグラフィックデザイン、および建築の実作品や提案の各媒体におけるプレゼンテーションの実例に対し、日頃から留意し、自身の制作への反映を視野に分析を行うこと。
関連科目	・「情報基礎演習」の履修および合格を本科目の履修条件とする。 ・本科目の履修および合格を「建築CAD演習Ⅱ」の履修条件とする。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに全体講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-BA119S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築材料		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	建築物の設計に必要となる材料選定の基本を理解する。
授業概要	建築材料への見識を深めることにより、設計の魅力と可能性を学ぶ。その学ぶことと実社会との間にリアリティを持たせるため、素材の産地や職人技術、手加工と機械加工の世界、その歴史的背景や現代的側面についても学ぶ。建築学科のディプロマシーに１に係わる。
授業計画 授業内容	第１回　建築材料概論 第２回　木材についての講義 第３回　木質材料についての講義 第４回　植物材料についての講義 第５回　金属材料（スチール・ステンレスなど）についての講義 第６回　非鉄金属材料（アルミニウム・チタン・銅など）についての講義 第７回　コンクリートについての講義 第８回　セメント・コンクリートについての講義 第９回　石についての講義 第10回　土・漆喰・石膏についての講義 第11回　焼成材料（タイル、レンガ、瓦など）についての講義 第12回　ガラス、プラスチックについての講義 第13回　レポート発表会 その1 第14回　レポート発表会 その2 第15回　その他の材料についての講義
成績評価	レポート及び期末試験により、総合的に評価する。
教科書	朝吹香菜子、他著「建築材料　新テキスト」彰国社
参考書　参考資料	藤森照信著「藤森照信、素材の旅」新建築社 JA109/隈研吾特集「Kengo Kuma:a LAB for materials」新建築社
履修上の注意	日頃から、身の回り、街中、建築雑誌で見かける様々な材料を観察する。興味を持ったら調べる。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 教科書の熟読、実際に当該材料が使われている建物を調べてみる。
関連科目	建築施工法
課題に対するフィードバックの方法	授業中にレポート発表（代表者数名）をしてもらい、講評と総括をする。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA215L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	近代建築史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	芸術学部：美術工芸科目　基幹科目、　建築学部：美術工芸科目　展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 江本　弘	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	①　現代までに至る、建築・都市の近代化過程についての大枠・流れを理解すること。 ②　①の理解に際し、建築家・建築作品のみに着目せず、その背景（地理・社会・文化など）をふまえて考察できるようになること。
授業概要	この授業は現在の建築環境に関わる、建築・都市の近代化過程についての講義を行う。わたしたちの暮らしのまわりや雑誌媒体では、日々さまざまな建築が生まれ、わたしたちの目に触れている。本科目は、そうした身近な現代建築がつくられる世界的状況を俯瞰的に理解するために、現代から逆行するかたちで近現代建築史を語りおこす。 本科目は建築学科ディプロマポリシーの１，3に該当する。
授業計画 授業内容	全15コマ 1.　ガイダンス 2.　近現代建築史を読み解く視点：教科書の構成から 3.　21世紀の建築へ 4.　ポスト・モダニズム（１）：1980年代～ 5.　ポスト・モダニズム（２）：1960年代末～ 6.　戦後建築史（１）：1960年代 7.　戦後建築史（２）：終戦～1950年代 8.　モダニズム（１）：1930年代 9.　モダニズム（２）：1930年代の日本 10.　モダニズム（３）：1920年代 11.　モダニズム（４）:1920年代の日本 12.　建築の世紀初頭 13.　建築の世紀末 14.　日本の状況：明治維新以降 15.　19世紀の建築理論へ ※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	毎回配布する小レポート（60%）と期末レポート（40%）により総合的に評価する。レポートの課題内容については追って知らせる。
教科書	本田昌昭、末包伸吾『テキスト建築の20世紀』
参考書　参考資料	日埜直彦『日本近現代建築の歴史 明治維新から現代まで』 江本弘『歴史の建設――アメリカ近代建築論壇とラスキン受容』
履修上の注意	講義では、西洋・日本近代の大まかな流れにポイントを絞って解説する。そのため、建築家・建築作品等の詳細な内容については、教科書や参考書、その他の書籍から情報を自発的に得ること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 （具体的な内容） 予習：　次回授業の該当年代にあたる建築物等について教科書で確認する。 復習：　講義内容の整理。関連文献（別途指示）の参照。
関連科目	「伝統住居概論」「伝統空間論」「伝統建築論 Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う予定。
教員の実務経験	有／建築設計（三井嶺建築設計事務所2017-18）
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ART-MA202L、AATDE227L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築ＣＡＤ演習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 宮内　智久	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	山内　貴博	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	黒田　祐五	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	中村　卓	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	・2次元CAD（Computer Aided Design）の意義をより深く理解するとともに、その実践のためにAutodesk AutoCADの発展的な操作法を習得する。 ・BIM（Building Information Modeling）の意義を理解するとともに、その実践のためにGraphisoft Archicadの基礎的な操作法を習得する。 ・建築設計作品の制作過程、およびプレゼンテーションにおけるコンピューターレンダリングと動画制作の意義を理解するとともに、その実践のためにalphacox Twinmotionの基礎的な操作法を習得する。
授業概要	昨今、建築に関連する実務上、2次元および3次元 CAD（Computer Aided Design）は必須のスキルとなっている。こうした現状を踏まえ、本演習では2次元および3次元 CAD、および3次元 CADの発展形であり、近年目覚ましく普及しつつあるBIM（Building Information Modeling）の、建築設計作品の制作過程、およびプレゼンテーションにおける意義を理解する。その上で、総合的な建築設計・表現能力の向上に向け、それらのソフトウェア（Autodesk AutoCAD、Graphisoft Archicad、alphacox Twinmotion）の基礎的および応用的な操作法を習得する。 建築学科ディプロマポリシー1および2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回、週1回・2コマ 第1回　ガイダンス、AutoCAD①（基本操作の復習） 第2回　AutoCAD②（応用操作） 第3回　AutoCAD③（同上） 第4回　Archicad①（基本操作：インストールとサンプルのモデリング） 第5回　Archicad②（同上） 第6回　Archicad③（同上） 第7回　Archicad④（応用操作：自身の設計作品のモデリング） 第8回　Archicad⑤（同上） 第9回　Archicad⑥（同上） 第10回 Twinmotion①（インストールとBIMモデルのインポート） 第11回 Twinmotion②（レンダリング応用） 第12回 Twinmotion③（同上） 第13回 Twinmotion④（動画制作） 第14回 Twinmotion⑤（同上） 第15回 Twinmotion⑥（成果品のプレゼンテーション、講評） ※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	下記に基づき総合的に評価する。 ・学習状況（30%、演習の円滑な進行への貢献を含む） ・課題に対する成果品（70%、全課題に対する成果品の提出を必須とする）
参考書　参考資料	・教員作成資料 ・「デザインの学校 これからはじめる AutoCADの本 ［AutoCAD/AutoCAD LT 2020/2019/2018対応版］」稲葉幸行著、技術評論社 ・「Autodesk AutoCAD 2022公式トレーニングガイド」井上竜夫著、日経BP ・「ARCHICAD 22ではじめるBIM設計入門[基本・実施設計編]」 BIM LABO 著、エクスナレッジ ・「CADの基礎と演習 ーAutoCAD2011を用いた2次元基本製図ー」赤木徹也他著、共立出版
履修上の注意	VDT（Visual Display Terminals＝PCなどの情報端末）作業が中心となるため、作業環境維持（各種IDとパスワードの管理など）、作業データ管理（こまめなバックアップなど）、健康管理（特に眼精疲労）に注意を払うこと。 演習で配布された、あるいは各自収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。 課題に対する成果物の提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	コンピューターソフトウェアの操作法の習得は、特に基礎段階では積み上げの性質が強く、つまずきを放置するとその先の学習がままならない。そのため、常に十分な予習復習により、各回の演習内容を確実に習得すること。 演習で扱う題材に関連する建築の実作品や提案の各媒体におけるプレゼンテーションの実例に対し、日頃から留意し、自身の制作への反映を視野に分析を行うこと。
関連科目	「情報基礎演習」および「建築CAD演習Ⅰ」の履修および合格を本科目の履修条件とする。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに全体講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-MA225S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	世界建築史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 白鳥　洋子	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	西洋、エジプト、イスラム、東洋の主要な歴史的建築について概要を把握し、基礎的な知識を身につける。時代や地域による建築の固有性を理解し、変遷を掴み、建築について論じる力を養う。
授業概要	古代エジプト、ギリシア、ローマ、西洋の中世、近世と各時代の主要な建築について概説を行う。さらに、イスラム、インド、アジアの主要な歴史的建築を概観し、地域や文化による建築の多様性を捉えて行く。世界の観点から歴史的建築について認識を深め、魅力を理解し、固有性と普遍性を捉えて行きたい。 本学ディプロマポリシー１、建築学部ディプロマポリシー１、３に該当する。
授業計画 授業内容	第1回：ガイダンス　エジプト・メソポタミアの建築 第2回：ギリシア建築 第3回：ローマ建築1 第4回：ローマ建築2 第5回：初期キリスト教建築　ビザンチン建築 第6回：イスラム建築　プレ・ロマネスク 第7回：ロマネスク建築 第8回：ゴシック建築 第9回：ルネサンス建築1 第10回：ルネサンス建築2 第11回：バロック建築 第12回：新古典主義、革命期の建築 第13回：19世紀の建築 第14回：西アジア、南アジアの建築 第15回：東アジア、東南アジアの建築
成績評価	評価ポイント：期末試験（60%）、小レポート（20%）、提出物（20%）
教科書	『西洋建築史図集』、三訂版、日本建築学会編、彰国社。
参考書　参考資料	『東洋建築史図集』、第1版、日本建築学会編、彰国社。桐敷真次郎、『西洋建築史』、共立出版。西田雅嗣、『西洋建築の歴史』、第1版、学芸出版社。その他は、適宜、講義中に提示する。
履修上の注意	西洋においても東洋においても優れた建築には新鮮な創造性、変遷や成熟、世界観があり、それらは現代の建築に置き換えて考えることができる。先人たちが残した遺産に学び、自身の制作や研究を深める契機にしてほしい。
予習・復習指導	講義（1コマ）に対して2時間の事前学習、2.5時間の復習を行うこと。 事前学習：次回講義の該当箇所について教科書、参考書を読み、概要を把握しておくこと。 復習：講義を振り返り、教科書、参考書を参照しながら、ノートを整理すること。
関連科目	近代建築史、日本建築史、現代の建築、芸術、哲学に関する科目。
課題に対するフィードバックの方法	期末試験終了後に模範解答をクラスルームに公開する。
教員の実務経験	フランスの大学の学位を持ち、長年に亘りヨーロッパで研究活動を行っている。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-MA227L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築計画Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安田　光男	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	生活に関する多面的な知見に触れながら、住居に関する建築計画についての基礎的な専門知識の理解を深め、現代のライフスタイルに応じた住居の計画・設計を行える能力を身につける。
授業概要	住居は人間生活を行うためのシェルターであり、あらゆる建築物の起源と言われる。本講義では、「住まう」ということに関する、さまざまな原理・原則について、具体的な例を用いて解説を行う。「住まう」ことについての現代的なテーマについても触れながら、時代とともに変化していく、ライフスタイルに応じた居住空間の計画、設計に関する基本的な知識を学ぶ。建築学科のディプロマポリシーの２、３に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回　ガイダンス、住居の建築計画学について 第2回　ライフスタイルと社会の変化について 第3回　住空間の計画プロセス1 第4回　住空間の計画プロセス2 第5回　住宅の単位空間 第6回　住空間の機能と組織 第7回　住環境としつらえ 第8回　住居計画　（屋根と階段、開口部と水回り） 第9回　住居計画　（外構・植栽、住宅の構成） 第10回　住居計画　（住戸の定型とバリエーション） 第11回　集合住宅の系譜 第12回　集合住宅の種類と規模 第13回　現代における集合住宅 第14回　優秀レポート発表 第15回　総括・ディスカッション
成績評価	学習状況（30%）とレポート課題（30%）及び期末試験（40%）によって評価する。
教科書	「住むための建築計画」　佐々木誠著他　彰国社
参考書　参考資料	「住宅の計画学入門」　岡田光正著他　鹿島出版会
履修上の注意	住居に関する建築計画に関して、幅広く興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。
予習・復習指導	教科書の第1章から第5章を読み、専門用語や掲載されている実例の建築物について調べておくこと。一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「建築計画Ⅰ」「建築計画Ⅲ」「建築デザイン演習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	レポート課題については優秀レポート作成者の発表を通して総評を行う。 期末試験については解説・総評を掲示する。
科目ナンバリング	COM-MA213L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	都市計画		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	・現代に至る都市の変遷と都市計画の歴史を学ぶ。 ・快適な都市環境の計画方法と、ルールについて学ぶ。 ・都市をどのようにつくり、どのように使うかについて学ぶ。
授業概要	本科目は都市計画の初学者を対象に、都市計画に関する基本知識を学ぶための都市計画概論に相当する科目である。現代都市の生成過程および都市計画の歴史をたどるとともに、現代の都市計画の具体的事例や都市デザインの実践事例を通して、都市の仕組みや都市計画法の役割、条例等の目的について講義する。本科目を通じて、これまで、都市がいかに計画されてきたか、また快適な都市環境をいかにして創り出すか、そのためにどの様なルールを用いるべきか、その知見を得ることが目標である。
授業計画 授業内容	講義は下記のスケジュールで進める予定である。 全15回 第01回 ガイダンス、都市について学ぶ目的 第02回 都市計画の目的と概要 第03回 都市のマスタープラン 第04回 土地利用計画 第05回 建築物の規制と誘導 第06回 地区に応じた都市計画 第07回 都市の交通計画 第08回 都市の再生 第09回 都市の防災と復興 第10回 都市の緑地と景観 第11回 市民参加のまちづくり 第12回 都市の住まいと住環境 第13回 海外の都市計画 第14回 現代の都市デザイン 第15回 総括とまとめ ※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	受講姿勢（出席状況、小テストなどを含め40%）、学期末レポートまたは試験の内容（60%）を総合して評価する。
教科書	1）饗庭伸・鈴木伸治 編著，阿部伸太 他著：「初めて学ぶ都市計画 第二版」市ヶ谷出版，2018 ２）その他、適宜資料を配布する。
参考書　参考資料	1）澤木昌典・嘉名光市 編著，武田裕之 他著：「図説都市計画」学芸出版社，2022 2）前田英寿 他著：「アーバンデザイン講座」彰国社，2018 3）都市計画教育研究会 編：「都市計画教科書第三版」彰国社，2001
履修上の注意	各回の授業では随時指定教科書の該当ページを参照するので、各自が必ず教科書を購入し、毎回持参する。
予習・復習指導	1回（1コマ）の講義について、4.5時間の予習復習をする。予習復習時間には、まち歩きや都市開発事例の調査・視察などに要する時間も含む。
関連科目	建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	適宜ミニレポート（小テスト等）を行い、授業内容の理解度を確認するとともに、次回以降の授業内でフィードバックを行う予定である。
教員の実務経験	都市計画行政および建築設計、環境保全計画、環境デザイン、まちづくり等に関する関する実務経験を有する教員が指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-DE228L

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築設計導入実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	3		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	山内　貴博	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	根来　宏典	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	新谷　謙一郎	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	①図面表現や模型制作の基礎的手法および道具の種類・使い方を正しく習得する。 ②図面描写や模型制作を通じて、建築の成り立ちについて理解できるようになる。 ③事例調査やダイアグラムの作成を通じて、建築空間がどのようなコンセプト（考え方）に基づいて設計されたのかを理解できるようになる。
授業概要	本科目は、建築設計の基礎科目である。課題を通じて、建築製図や模型制作に用いる各種道具の適切な使い方、建築空間の見方、読み方を学ぶ。 １）線の太さ、強弱、濃淡の使い分けとともに、文字の記入方法を習得する。 ２）配置図・平面図・断面図・立面図など、基本的な建築の図面（一般図）および透視図（パース）など、2次元での立体空間の表現技法について学ぶ。 ３）模型制作を行うことで立体の表現技法を習得する。 ４）世界の名作建築を教材に、建築物の図面を読み取り、どのような考え方で空間が設計されているのかを理解するなど、建築学科の学生として身につけておくべき力を育む。 各課題に取り組む上で、建築がどのようにつくられ、どのような部材で構成されているかを理解しながら取り組む。建築学科のディプロマポリシー１，４に係る科目である。
授業計画 授業内容	全15回 第1週：ガイダンス（用具の使い方、スケジュール、課題の説明） 第2週：線の練習 第3週：建具表 第4週：建築図面の描き方（１）　配置図・平面図１ 第5週：建築図面の描き方（２）　配置図・平面図２ 第6週：建築図面の描き方（３）　平面図３ 第7週：建築図面の描き方（４）　立面図・断面図1 第8週：建築図面の描き方（５）　断面図２ 第9週：建築の図法　建築の図法（軸測投影図法、中心投影図法） 第10週：建築模型の制作（１）（模型箱制作・型紙制作・ボードへの貼り付け） 第11週：建築模型の制作（２）（部材の切り出し・仮組） 第12週：建築模型の制作（３）（組み立て・完成） 第13週：建築空間の読み取り（１）　事例収集・ダイアグラムの作成 第14週：建築空間の読み取り（２）　作品紹介シートの作成 第15週：最終講評会（建築模型・作品紹介シート）、まとめ ※課題の詳細および日程については、各課題の授業初回に指示する。
成績評価	受講態度（20%）、提出物（課題作品）や小テストなどの完成度（80%）によって総合的に評価する。
教科書	１）安藤直見・柴田晃宏・比護結子 著：「建築のしくみ　住吉の長屋／サヴォア邸／ファンズワース邸／白の家」丸善株式会社，2008
参考書　参考資料	１）日本建築学会 編：「第3版コンパクト建築設計資料集成」丸善株式会社，2005 ２）垣田博之 著：「名建築のデザインに学ぶ製図の基礎」学芸出版，2021
履修上の注意	１）本実習科目が不合格だと２年生に進級できないため、各課題の条件および提出期限は厳守する。 ２）指定教科書「建築のしくみ」は随時ページを参照するので、開講までに必ず購入し、毎回持参する。 ３）特に指示しない限り、製図板を除く製図用具は毎回持参する。 ４）授業にはノートやメモ等を毎回持参し、受けた説明をメモする。（随時ノートチェックを行う。） ５）模型制作等で使用する道具に関する安全対策指導には必ずしたがう。
予習・復習指導	１）実習課題はその都度出題するが、提出期限は厳守する。 ２）各週の授業について、1.5時間の事前学習、3時間の復習が必要である。 ３）事前学習としては、教科書や参考資料の熟読の他、建築書の読み込み、建築物の見学を自発的に行う。 ４）復習としては、各課題の振り返りと、製図練習の繰り返しを行う。
関連科目	構成基礎演習、建築設計基礎演習Ⅰ・Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	課題作品について、口頭発表、講評、質疑応答等を行う。
教員の実務経験	建築、インテリア、都市計画、景観設計、環境デザイン、プロダクト、グラフィックのデザインなど、広範囲にわたる実務経験を持つ教員が指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-SP011P

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築設計基礎演習Ⅰ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	山内　貴博	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	森重　幸子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	生川　慶一郎	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	細尾　直久	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	大田　精一	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
非常勤講師	中村　卓	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
非常勤講師	藤巻　佐有梨	ＫＹＯＢＩ　芸術学部

到達目標	設定条件を満たした適切な設計が行えること。設計手順を理解し、同種建築の分析を通して適切な建築計画を行い、自身の作品を正確な方法で表現できること。また、伝統建築特有の基礎的知識を構法も含め理解すること。
授業概要	基本的な手順に沿って一通りの建築設計プロセスを体験する。第1課題は、小規模建築（10mキューブ）の課題を通して基本的な設計方法を習得する。第2課題は、伝統建築の理解の一助として茶室・茶屋の描写を行う。第3課題は、小規模ギャラリーを設計する。敷地や先行事例の調査・分析を行い、コンセプトを立て、それを具体化する設計を行う。全体を通して建築作品としてまとめていくプロセスを習得する。 建築学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15 週/ 週1日・3コマ 第1週 ガイダンス、課題A： ＜10mキューブ＞：課題説明・課題分析 第2週 課題A： コンセプトワーク・模型制作・エスキース 第3週 課題A： 模型制作・エスキース 第4週 課題A： 図面作成（平面図・断面図・立面図）・エスキース 第5週 課題A： エスキース・成果品（プレゼンボード・完成模型）作成 第6週 課題A： 最終提出・優秀作品発表 第7週 課題B： ＜茶室のトレース＞ ： 課題説明・建築図面の表現と理解（1）/平面図 第8週 課題B： 建築図面の表現と理解（2）/立面図・事例見学 第9週 課題B： 建築図面の表現と理解（3）/断面図・最終提出 第10週 課題C：＜小規模ギャラリー＞ ： 課題説明・課題分析・敷地見学・事例調査 第11週 課題C： コンセプトワーク・図面作成（配置図）・事例見学 第12週 課題C： 図面作成（平面図・断面図）・模型制作・エスキース 第13週 課題C： 図面作成（立面図）・案の修正・エスキース 第14週 課題C： エスキース・成果品（プレゼンボード・完成模型）作成 第15週 課題C： 最終提出・優秀作品発表 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	各課題の成果品の総合点で成績評価を行う。 成果品提出遅延の場合は大幅に減点されるので注意すること。
教科書	自作プリント、「第3版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善
参考書　参考資料	「建築概論」、「建築計画Ⅰ」の教科書及び講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業（CAD 等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。授業内で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	設計課題と類似する実例の資料の調査ならびに実際の建築物を日頃より視察し、分析すること。 「建築設計導入実習」で習得した図面・模型の作成方法、事例の読解方法を事前に確認しておくこと。 各課題共通で教科書のSection1,3を読み、かつ課題CについてはSection11も確認しておくこと。
関連科目	「建築設計導入実習」、「建築設計基礎演習Ⅱ」、「構成基礎演習」、「情報基礎演習」、「建築CAD演習Ⅰ」、「建築概論」、「建築計画Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとのエスキースや中間・最終成果品に対して講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-SP112S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築設計基礎演習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 森重　幸子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	宮内　智久	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	江本　弘	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	種村　俊昭	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	細尾　直久	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	大庭　徹	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
特任准教授	河村　大助	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	小規模な空間および住宅の設計により、基本的な建築空間の設計能力を身に付けるとともに、設計提案を図面および模型を用いて表現する方法を習得する。また、小規模の伝統建築について、構法を含めた知識を習得する。
授業概要	第一課題として、小規模なカフェ空間の設計を通して、建築や空間のプロポーション、動線の計画、光や影の演出、景色の切り取りといった基本的な空間造形および演出方法について学び、プレゼンテーションを行う。第二課題として、趣味空間のある住まい方を提案しながらより豊かな住空間の創造を目指しエスキスを行い、基本設計図書を作成し、プレゼンテーションを行う。 建築学科のディプロマポリシー１、２、３、４に該当する。
授業計画 授業内容	全１５週／週2日・4コマ 第 1 週 ガイダンス、課題A・[ライブラリーカフェ]①：課題説明、敷地調査 第 2 週 ギャラリー②：事例分析、コンセプト立案 第 3 週 ギャラリー③：コンセプト・基本構想報告 第 4 週 ギャラリー④：平面・断面・エスキス模型報告 第 5 週 ギャラリー⑤：中間発表 第 6 週 ギャラリー⑥：案の再検討、成果品作成作業 第 7 週 ギャラリー⑦：成果品作成作業 第 8 週 ギャラリー⑧：作品発表、講評 課題B[趣味空間を活かした住宅]①：課題説明、敷地調査 第 9 週 住宅②：事例分析、コンセプト立案 第 10 週 住宅③：コンセプト・基本構想報告 第 11 週 住宅④：平面・断面・エスキス模型報告 第 12 週 住宅⑤：中間発表 第 13 週 住宅⑥：案の再検討、成果品作成作業 第 14 週 住宅⑦：成果品作成作業 第 15 週 住宅⑧：作品発表、講評
成績評価	授業態度20%、「基本型課設計・製図・展開型課題成果品」80%の内容から総合評価を行う。
教科書	「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善
参考書　参考資料	「建築概論」、「建築計画Ⅰ・Ⅱ」の教科書及び講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。ＶＤＴ作業（ＣＡＤ等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。 課題AおよびBに当たっては、教科書のsection3「室と場面」を読み、行為と必要な空間の寸法について確認しておくこと。
関連科目	1年次の「建築設計導入実習」「建築設計基礎演習　Ⅰ」から発展した内容を取り扱う。 同時期に開講する「IT活用応用演習」は、設計提案の表現手法として本演習に活用できる内容を取り扱う。「建築計画Ⅱ」は特に住空間の計画上の考え方として本演習と関連がある。
課題に対するフィードバックの方法	各回ごとに進捗状況や構想内容についての質疑応答を行う。 提出作品に対して、グループごと、および全体での講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-SP213S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	建築設計演習Ⅰ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安田　光男	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	白鳥　洋子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	江本　弘	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　建築学部
講師	黒田　祐五	ＫＹＯＢＩ　建築学部
特任教授	小梶　吉隆	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	大田　精一	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
非常勤講師	山口　尚之	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
非常勤講師	大庭　徹	ＫＹＯＢＩ　芸術学部
特任准教授	河村　大助	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	（建築デザイン） ①小・中規模建築物の設計手法を習得する。 ②基本コンセプト、ゾーニング、配置計画、動線計画、環境設計、構造設計、プランニングを体系的に進める事が出来るようになる。 （伝統建築） 製図器具の使い方や図面表現の基本知識を理解し、伝統建築特有の複雑な様式を表現できる製図技術力を習得するとともに、伝統建築設計図面を読解できる技術力を体得する。
授業概要	第1課題は共通課題、第2課題は建築デザイン・伝統建築の課題の選択制で行われる。 （建築デザイン） 小・中規模の集合住宅、教育施設、商業施設、コミュニティ施設 などの設計を行い、課題を通して、計画・構造・設備・デザイン・透視図など、建築設計の基礎的要素を体験的に学ぶことを目的とする。具体的な敷地に対してフィールドサーベイを行い、コンセプト(設計意図)を立て、それを具体化する設計を行う。各学生が分析・検討した成果品を個別にチェックを行い、 最適解とするための指導を行う。 建築学科のディプロマポリシーの２．３．４に係る。 （伝統建築） 伝統建築設計図が表現している意味を理解し、製図技術力を習得する為、代表的な寺院・神社建築の平面図・断面図・立面図（縮尺＝１/40 ～１/50 程度）を作図する。 建築学科のディプロマポリシーの２に係る。
授業計画 授業内容	全 15 週/ 週 90 分×4時限× 15 回 共通課題（第1課題） 第1週　ガイダンス、課題 A「集合住宅」: 課題説明・課題分析作業 第2週　課題・敷地・事例分析結果報告<グループ別> 第3週　平面計画・断面計画・エスキスチェック 第4週　基本構想発表<グループ別・全体> 第5週　構造計画・環境計画・エスキスチェック 第6週　プレゼンテーション作成・面積表・仕上表作成 第7週　作品提出・作品発表<全員公聴・評価> 建築デザイン課題（第2課題選択制） 第8週　課題 B「保育園」: 課題説明・課題分析作業 第9週　課題・敷地・事例分析結果報告<グループ別> 第10週　平面計画・断面計画・エスキスチェック 第11週　基本構想発表<グループ別・全体> 第12週　平面・断面・エスキスチェック 第13週　構造計画・環境計画・エスキスチェック 第14週　プレゼンテーション作成・面積表・仕上表作成 第15週　作品提出・作品発表<全員公聴・評価> 伝統建築課題（第2課題選択制） 第8週　課題説明・図面作成 第9週　見学会 第10週　模型作成 第11週　模型作成 第12週　模型作成 第13週　模型作成 第14週　模型作成 第15週　模型作成
成績評価	学習状況（20%）、提出作品（80%）の完成度によって総合的に評価する。

教科書	「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善 「集合住宅（建築設計テキスト)」　建築設計テキスト編集委員会編、彰国社 「保育施設（建築設計テキスト）」、山田あすか・藤田大輔、彰国社（第2課題で保育園を選択するもののみ）
参考書　参考資料	演習におけるレクチャー等で配布される資料及び下記の資料 「建築設計資料87　低層集合住宅2」　建築思潮研究所編、建築資料研究社 「ヒルサイドテラスで学ぶ建築設計製図」勝又英明、学芸出版社 「保育園・幼稚園・こども園の設計手法」仲 綾子その他、学芸出版社
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業(CAD等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理し常備すること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。 課題着手までに類似物件を数多く調査・見学しておくこと。
関連科目	「工芸実習導入」、「工芸実習基礎Ⅰ」、「工芸実習基礎Ⅱ」、「建築計画Ⅱ」、「建築計画Ⅲ」、「建築デザイン演習Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	建築デザイン（第1課題・第2課題） 20名程度の学生に一人の教員指導によるスタジオ制とし、発表会において全ての学生の作品に対して講評を行う。さらに、すべての作品について教員・学生投票を行い、投票数を多く獲得した学生発表について講評を行う。 伝統建築（第2課題） 最終回にて成果品に対し総評を行う。
教員の実務経験	各種建築計画・設計実務経験を有する。
科目ナンバリング	AAT-SP214S